

令和5年度

(2023年度)

社会福祉法人 東蒲原福祉会

事業報告書

東 蒲 の 里

東蒲の里 みかわ園

ど ん ぐ り

と こ な み

目

次

I 令和5年度社会福祉法人東蒲原福祉会 法人事務局 事業報告

	頁
1. 入職・離職状況	1
2. 人員構成	1
3. 法人委員会開催状況	
3-1. 組織強化チーム	2
3-2. サービス管理向上チーム	3
3-3. スキルアップチーム	4
4. 東蒲原福祉会研修報告	5

1 入職・離職状況

1. 令和5年度入職・離職状況（常勤8時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里		みかわ園		どんぐり		とこなみ	
職員数 (4月1日)	116人		4人		37人		36人		32人		7人	
	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職
4月	5	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
7月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
10月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	1	2	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0
1月	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
合計	10	9	0	0	4	3	3	0	1	2	2	4
入職率	8.62%		0.00%		10.81%		8.33%		3.12%		28.57%	
離職率	7.76%		0.00%		8.10%		0.00%		6.25%		57.14%	

※ 令和4年度の法人全体の入職率4.96%（6人）、離職率9.92%（12人）

【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

【参考】

令和4年度の介護業界全国平均離職率14.4%

2 人員構成

1. 令和5年度事業所別・雇用形態別職員数（令和6年3月31日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	どんぐり	とこなみ
職員	114人	4人	38人	37人	30人	5人
臨時的採用職員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
パート職員	64人	5人	7人	17人	21人	14人
シニア職員	8人	0人	1人	3人	4人	0人
登録ヘルパー	6人	0人	0人	0人	6人	0人
合計	192人	9人	46人	57人	61人	19人

3-1 組織強化チーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項
9月29日	○令和5年度事業取り組み検討 ・ケアプラン連携システムの導入について
10月27日	○ケアプラン連携システムの導入について ・ケアプラン連携システムの導入について各施設から報告 ・新潟県老人福祉施設研究大会での業務改善の取組について報告
11月17日	○ケアプランにおける記録業務の軽減について ・介護記録の入力支援システムの紹介 ・各施設でシステムの導入について検討を行うため業者より、説明会を開催することとした
3月7日	○介護記録の入力支援システムの導入について ・記録支援システムの導入について ・記録支援システムを導入する施設では、次年度の導入が可能か検討し導入に向けた準備を進めることとした ○ケアプラン連携システムの導入について ・厚労省では、ケアプラン連携システムの義務化を検討していることから次年度中に各施設でシステムの導入を進めていくこととした。

2. 結果及び課題

(1) 人事考課制度について

- ・各施設で人事考課を実施したが、制度の理解について指導や研修を行うことができなかった。次年度は、人事考課制度について各施設の新採用職員や就業期間の短い職員を対象とした指導の実施に向けて取組を行いたい。

(2) 業務効率化と連携強化について

- ・令和5年度から全国で「ケアプランデータ連携システム」の運用が開始され、各施設事業所でも開始できるよう準備を進めた。
- ・その他、各施設の記録システムについて効率化が図れないか、現在のシステムを提供している業者から「記録支援システム」についての説明会を行ってもらい、各施設で導入に向けた検討を行ってもらった。

3-2 サービス管理向上チーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項
8月28日 (ワーキング)	○令和5年度事業取り組み検討 ・令和5年度事業計画の立案
10月2日	○令和5年度事業取り組み検討 ・4年度の事業の報告 ・令和5年度事業計画 ・各施設において、整備されている指針とマニュアルの更新頻度を確認した。
12月16日 (ワーキング)	○各施設において整備されている指針やマニュアルの状況 ・各施設において、指針やマニュアルは整備されていた。 ・各制度において義務づけられた指針は、制度が変わる度に更新していたが、定期的な見直しにおいては各施設に違いがあった。 ・会議の話し合いの中で、経験年数が多い職員ほどマニュアルを軽視しているのではないかなどの意見があった。
1月19日 (ワーキング)	○各施設において整備されている指針やマニュアルの状況 ・各施設において、見直していない指針やマニュアルの見直しを行った。 ・見直した際の記載方法について、検討を行った。
2月16日	○各施設において整備されている指針やマニュアルの状況 ・日々の業務においてどこまで手順書として作成しているか、各施設での基準の確認を行った。 ・全体を通じて、法人で統一してはどうかとの意見があった。

2. 結果及び課題

(1) 各施設において整備されている指針やマニュアルの状況

- ・指針や手順書の見直しにあたり、どの会議で行うか明確になっていないため、更新されていない手順書が多かった。
- ・指針や手順書の見直しにあたり、制度が変わった都度で良いのか、定期的に行うのか、各施設で違いがあった。指針においては指導監査や実地指導の項目にあるため、整備されている指針に変わりはない。マニュアルや手順書においては、各施設において、どこまでをマニュアルや手順書に記入するかの判断に違いがあった。

(2) 今後の取り組みについて

- ・各施設における見直し会議の設置や見直し頻度、手順書の内容を法人で統一化を検討したい。

3-3 スキルアップチーム

1. 委員会開催状況

令和5年度においては、スキルアップチームとしての会議の開催が行えなかった。

2. 結果及び課題

(1) 令和5年度の研修について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、集合研修は予定通り開催することができなかった。

(2) 新任職員研修

- ・新任職員研修については、日程調整や講師の依頼、採用人数、時期等を考慮し、4月以降の採用職員の研修を12月にまとめて開催した。
また、研修講師を各施設に配置し、入職する施設で行う。

(3) 今後の取り組み

- ・新任研修の研修資料の見直しや、必要な研修をどのように行っていくか検討を継続していく。

4 東蒲原福社会研修報告

1. 研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	年度中	東蒲原福社会新任職員研修 講師：東蒲原福社会 職員	新任職員	16名

2. 結果及び課題

- (1) 東蒲原福社会研修体系に基づいた研修については、新任研修を除き新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。
- (2) 今後の取組について
 - ・就業時間を考慮した研修の日程や時間帯を検討し、多くの職員が研修に参加できるように計画したい。

Ⅱ 令和5年度社会福祉法人東蒲原福社会

東蒲の里 事業報告

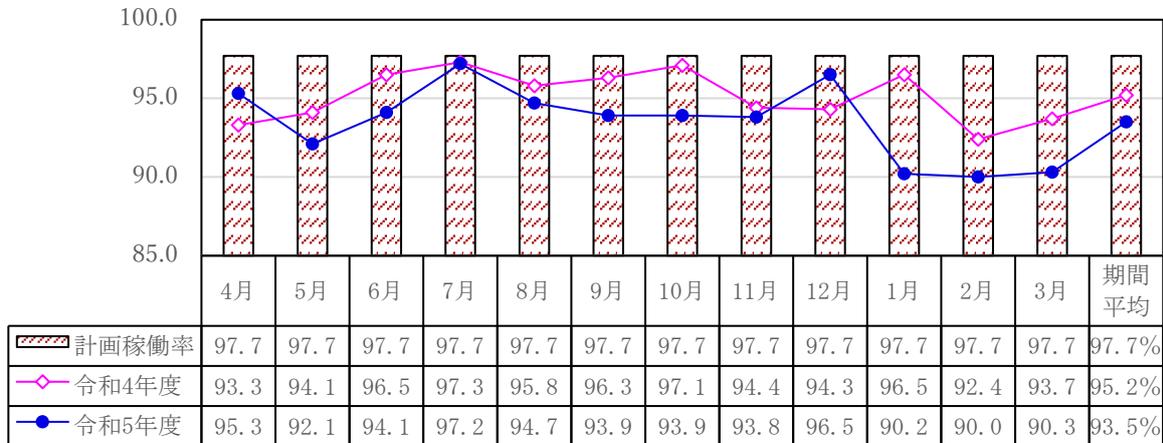
	頁
1. 介護老人福祉施設	6
2. 短期入所生活介護事業	10
3. 通所介護事業	13
4. 居宅介護支援事業	17
5. 東蒲の里研修報告	21
6. 東蒲の里ボランティア活動状況	23
7. 東蒲の里災害対策	23
8. 東蒲の里苦情受付・対応報告	24
9. 東蒲の里事故等発生状況報告	25

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(50人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,114日であったことから

$17,114 \text{ 日} \div 18,300 \text{ 日} (50 \text{ 人} \times 366 \text{ 日}) = 0.9351$ 稼働率 93.5%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(令和6年3月31日現在)

	要介護度					期間平均
	1	2	3	4	5	
令和4年度	0人	1人	11人	29人	9人	3.92
令和5年度	0人	1人	8人	29人	12人	4.04

3. 要介護度状態の変化(令和6年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	0人
維持	41人
悪化	9人
合計	50人

4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月4日 ～ 4月11日	観桜会	・気分転換を兼ねて散歩をして桜を鑑賞した。 お茶とお菓子をお出しして、写真撮影を行った。
7月1日 ～ 7月14日	七夕会	・ご利用者から願いを書いていたいただいた短冊をつけて、七夕飾りと一緒に写真撮影を行った。
8月14日	花火見物	・施設内の食堂から花火を鑑賞した。
9月10日	敬老会	・式典を開催し、賀寿のご利用者は記念撮影や記念品を贈呈した。その後、皆さんでお祝いの会食を行った。 ※感染症対策を行い実施した。
10月10日	秋祭り	・利用者と職員によるカラオケ大会や輪投げや射的などの屋台を行った。 ※感染症対策を行い実施した。
12月14日	クリスマス会・忘年会	・食事はバイキング形式によるお寿司を提供した。ご利用者と職員がカラオケを行い、その後にケーキとプリンを提供した。 ※感染症対策を行い実施した。
1月1日 1月2日 1月12日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会を実施した。 正月料理(お汁粉、甘酒)を用意し、歌を一緒に歌って正月の雰囲気を楽しんでいただいた。 ・団子刺しの行事を行った。 ご利用者には、団子刺しの枝を整える作業や飾りつけをしていただいた。

5. 事業報告(総括)

施設サービスの質を高めるため、研修の実施やマニュアルの見直しを行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 言葉遣いや態度などの接遇に関する指導では、現場で適宜注意を行うことで適切な言葉遣いなどを身に付ける環境作りを行います。 ② 身体拘束や虐待防止などの指針、ケアにおける手順書を定期的に見直します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 日頃の使っている言葉遣いの見直しを行い、注意が必要な言葉をケアステーションの扉に貼り、常に意識できるように対策を行った。 ② 各委員会において施設における指針の見直しを行った。事業所内において手順書を見直す会議を開き、食事などのケアの手順書の見直しを行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々のケアにおいて、手順書として作成されていないことがないか確認します。

事業継続計画(BCP)に沿った取り組みを強化します。	
取組事項	① BCPに関する研修及び訓練を行います。
実績	① マニュアルを作成し、感染症についてはシミュレーションを行った。
課題と今後の取組	・ 研修及び訓練を行います。

ITやICTなどのテクノロジーを活用し、施設からの情報発信を充実させるとともに業務負担の軽減を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① フェイスブックやラインなどのSNSを活用し、施設の情報を発信します。 ② 業務の効率化と職員の負担軽減を図るため、施設で使われている情報共有アプリなどを有効に活用できるよう指導を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 観桜会や七夕などの施設の様子をフェイスブックに掲載した。 ② 会議録や報告に使用する kintone、会議の際に使用する Zoom の指導を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュールや連絡事項の伝達において、一人ひとりの職員が確認を行うように徹底します。

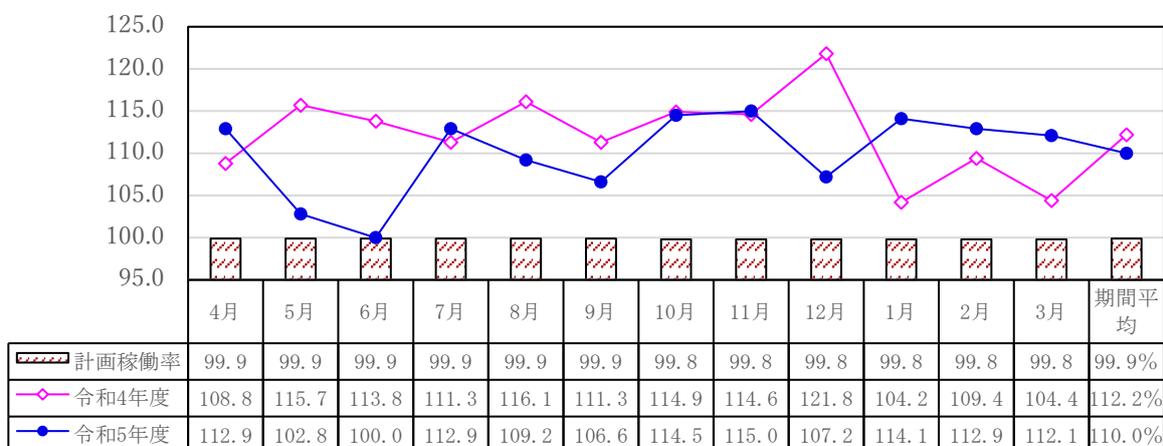
自立支援に向けたケアの充実を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者の体を動かす時間を増やすため、個々のご利用者または小さいグループで行うことができるレクリエーションのスケジュールを作り実践します。 ② 自立支援に向けた業務内容や業務マニュアルの見直しに活かせるよう、職員が様々な研修に参加します。 ③ ご利用者が健康に過ごせるよう、介護職員と専門職(医療、栄養、機能訓練)の連携を強化する取り組みを行います。 ④ 特養の利用者が多く発症する尿路感染や誤嚥性肺炎による入院を予防するため、現在のケア方法を検証し、見直しを行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 昼食の出前食を希望するご利用者に対して出前食を行ったり、外出の機会としてバスハイクを行った。しかし、体を動かすレクリエーションの実施はできなかった。 ② 褥瘡予防や虐待防止、認知症の理解などの研修に参加した。研修内容の伝達は行ったが、マニュアルの見直しまでは行えなかった。 ③ 介護職員と看護職員が尿路感染症を予防するために、尿路感染症の知識や陰部洗浄の必要性の研修資料を作成し、勉強会を行った。 ④ 尿路感染症のリスクを減らすために排泄ケア方法と日課の見直しを行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排泄ケア方法と日課を見直したことによる尿路感染症のリスクが低減できたか評価を行います。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(8人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,240日であったことから

$$3,240 \text{ 日} \div 2,928 \text{ 日} (8 \text{ 人} \times 366 \text{ 日}) = 1.106 \text{ 稼働率 } 110.6\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

※稼働率が100%を超えている理由について

定員8名を超える利用希望があり、特養の利用者が入院している間、そのベッドを短期入所利用に代えて利用していただいたため、稼働率が100%を超えている状況です。

2. 要介護度別延べ利用日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和4年度	0	32	0	636	153	1,077	885	489	3,272日
令和5年度	0	4	0	230	434	813	1,407	352	3,240日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	26	24	24	27	27	26	31	31	32	31	31	27	28人
延べ利用日数	271	255	240	280	271	256	284	276	266	283	280	278	270日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和4年度	1.00	2.70 日	2.95	9.74 日
令和5年度	1.00	4.00 日	3.13	9.69 日

5. 要介護度状態の変化（令和6年3月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	0 人
維 持	0 人	22 人
悪 化	0 人	5 人
合 計	0 人	27 人

※障害者利用は除く

6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

7. 事業報告(総括)

ご利用者やご家族が安心して在宅生活が続けられるよう支援します。	
取 組 事 項	① 多職種と連携を図り、利用中の栄養状態や身体機能を把握し、安定した日常生活が継続できるよう個々に合わせたケアを実施します。また、施設で行っているケアが自宅でも継続できるよう、ご家族や担当介護支援専門員に対して情報を提供します。
実 績	① 多職種と連携し、水分量、食事摂取状況の観察、機能訓練や医療的ケアの統一を図った。 また、ご家族へ連携ノートでの報告や送迎時に施設での対応方法を伝え、必要に応じてアドバイスをを行った。 介護支援専門員に対しては、毎月提出する利用者状況報告書を活用して利用時の情報の提供を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 安定した日常生活が継続できるよう、各専門職の視点から利用者のニーズを洗い出し、個々に合ったケア身体機能の維持に向けて取り組みます。 職員の知識や技能の向上を図るため、積極的に外部研修に参加します。

業務継続計画(BCP)に沿った取り組みを強化します。	
取組事項	① BCPに関する研修及び訓練を行います。
実績	① マニュアルを作成し、感染症についてはシミュレーションを行った。
課題と今後の取組	・ 研修及び訓練を行います。

ご家族との交流、施設の取り組みについて理解を深められるよう努めます。	
取組事項	① 施設での取り組みや介護に関する情報を発信します。 送迎時にご家族と面談する時間を作り、ご自宅での様子や ② ご家族の希望などについて意見交換を行います。
実績	① 「ミニ通信」を年3回発行した。 ② 介護に関する情報の他、ご利用者の施設での様子を掲載した。 ③ ご家族からの相談を受け、ケアの方法などをアドバイスし自宅でも行えるよう支援した。
課題と今後の取組	・ 施設での取り組みを紹介する「ミニ通信」の発行を継続します。また、ご家族へサービスに関するアンケートを実施し、サービスの向上に取り組んでいきます。

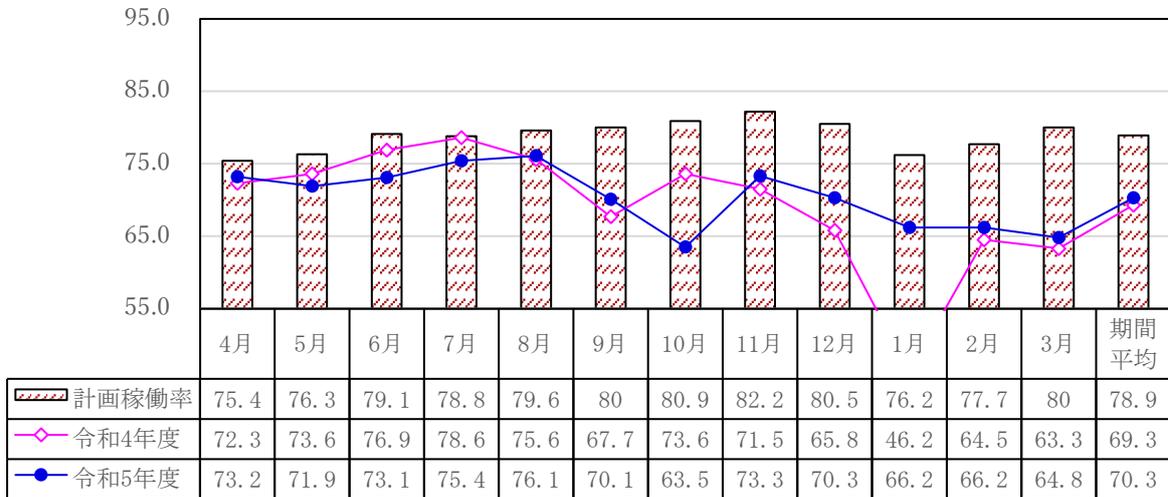
ITやICTなどのテクノロジーを活用し、施設からの情報発信を充実させるとともに業務負担の軽減を図ります。	
取組事項	① オンライン会議や情報共有アプリなどを活用したサービス担当者会議の開催や情報共有を進めます。 ② 業務効率化と職員の負担軽減を図るため、施設で使われている情報共有アプリなどを有効活用できるよう指導を行う。
実績	① 情報共有アプリを活用し、各事業所、法人内の在宅サービスと情報共有しケア方法の統一を図ることができた。 ② 施設で情報共有アプリを活用し、多職種と情報の共有を図ることができた。
課題と今後の取組	・ 家族の年齢層にあった情報発信の方法を検討し実施します。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(25人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

年間の延べ利用日数が5,463日であったことから

$5,463 \text{ 日} \div 7,775 \text{ 日} (25 \text{ 人} \times 311 \text{ 日}) = 0.7026$ 稼働率 70.3%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 要介護度別延べ利用日数

	障 害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和4年度	272	299	95	1,519	922	1,277	433	503	5,320 日
令和5年度	283	498	113	1,445	1,044	1,191	492	397	5,463 日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	60	63	61	60	60	58	59	59	57	52	55	62	59 人
延べ 利用日数	457	485	475	491	514	456	413	482	457	397	414	422	455 日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和4年度	1.16	4.85 日	2.53	7.97 日
令和5年度	1.12	5.30 日	2.55	8.48 日

5. 要介護度状態の変化（令和6年3月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	2人	1人
維 持	12人	23人
悪 化	0人	9人
合 計	14人	33人

※基準該当3名、外部委託(きりん荘)12名を除く

6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月10日	観 桜 会	・麒麟山公園や角神など町内の桜を見に外出を行った。
4月27日	軽食作り (はつらつ体操クラブ)	・皆さんでたこ焼きを作り、茶話会を行った。
5月18日	菜園作り (はつらつ体操クラブ)	・皆さんで協力し、サツマイモ・きゅうり・トマトなどの苗を植えた。
6月15日	風鈴作り (はつらつ体操クラブ)	・かのせ温泉赤湯の方を講師に招いき、皆さんで風鈴作りを体験した。
7月20日	絵はがき作り (はつらつ体操クラブ)	・和紙を使用し、暑中見舞い用の絵はがきを作った。
9月18日 ～9月23日	敬 老 会	・式典と記念品の贈呈、長寿の祝いの方には写真撮影を行った。
9月28日	軽食作り (はつらつ体操クラブ)	・ご利用者の希望により、お好み焼きを作り茶話会を行った。
12月18日 ～12月30日	クリスマス・忘年会	・日替わりで、ゲームや余興を披露した。最終日にはご利用者と一緒に餅つきを行った。
1月13日	団子刺し	・皆さんで団子を丸め、装飾品を飾って楽しまれた。

7. 事業報告(総括)

<p>要支援から要介護状態になっても、心身共に健康状態が安定し在宅生活が継続できるよう、自立支援に取り組めます。</p>	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 要支援状態の方がデイサービスを利用しやすく、楽しめる環境作りに取り組めます。 ② 要支援から要介護状態となっても、個々の利用者の状態に合った支援を行うことで、在宅生活の継続を支援します。 ③ 個々の利用者の生活状況、健康状態を把握するため、利用者家族や介護支援専門員、医療機関等に聞き取り調査を行います。 ④ 個々の生活環境や状況を把握し、在宅生活を続ける上で重要な生活動作の維持向上を目的とした個別機能訓練を行います。 ⑤ 認知症の方も安心して過ごせるよう、認知症ケアのユマニチードを導入します。また、他者との交流がより深められるようレクリエーションや多目的活動の見直しを行います。 ⑥ ご利用者の栄養状態や水分摂取量を把握し、健康状態の安定と異常の早期発見に努めます。
実績	<ol style="list-style-type: none"> ① 介護予防として、要支援の方が楽しく転倒予防や認知症予防ができるよう、週1回「はつらつ体操クラブ」の活動を行った。この活動では、月1回のイベントを開催し見学やお試し利用に来ていただくことで新規利用につながった。 ② 状態の変化に合わせて、個別機能訓練やケアの見直しを行った。また、家族に対して介護方法の指導を行った。 ③ 退院カンファレンスの参加や介護支援専門員から退院後の注意点等の確認を行った。健康状態に不安がある時は対応等について訪問看護へ聞き取りを行った。 ④ 自宅へ訪問し普段の生活の様子や家族の要望の聞き取りを行った。また、ご利用者の身体機能の評価を行い、生活状況に合わせた個別機能訓練を行った。 ⑤ 認知症の方が安心して過ごせるよう、職員が仲介しレクリエーション等の活動で他の利用者に関わりが持てるよう支援した。 ⑥ 自宅とサービス利用時の食事や水分の摂取状況を把握し、異常が見られた時には早めの受診に繋げることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人内の在宅サービス(通所介護・訪問介護)が連携してサービスを提供することで、ご利用者が長く在宅生活が継続できるよう取り組めます。 ・ 要支援の方や要介護の軽い方の取り組みとして、「はつらつ体操クラブ」の活動を充実させます。地域の方にも活動を知ってもらえるよう、ボランティアとして一緒に体操やイベ

	ントの参加を働きかけていきます。
--	------------------

業務継続計画(BCP)に沿った取り組みを強化します。	
取組事項	① BCPに関する研修及び訓練を行います。
実績	① マニュアルを作成し、感染症についてはシミュレーションを行った。
課題と今後の取組	・ 研修及び訓練を行います。

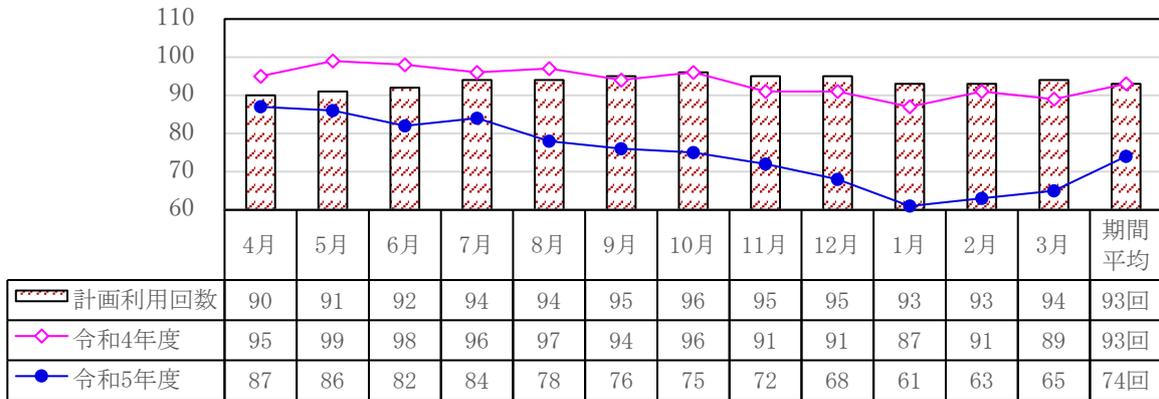
ITやICTを活用し業務の見直しを行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① IT機器を活用した新たなケアプログラムを検討し、早期に実践します。 ② ご家族に分かりやすく利用者の利用状況を伝えるため、動画や画像を使用した情報提供を行います。 ③ 業務の効率化と職員の負担軽減を図るため、施設で使われている情報共有アプリなどを有効に活用できるよう指導を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 「はつらつ体操クラブ」で、パソコンを使用した脳トレを行った。 ② ご利用者の行事での様子や、皮膚などの異常があった箇所をタブレットで動画や画像で分かりやすく伝えることができた。 ③ Slack での情報共有や zoom での会議を行ってきたが、有効的に活用できない職員もいたため、指導が不十分だった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、施設で使用しているアプリを有効的に活用できるよう指導を強化していきます。 ・ 家族や介護支援専門員に対して、ご利用者様子などのタブレットを使用し画像や動画で情報提供します。 ・ 地域のサロン活動に参加し、「はつらつ体操クラブ」の活動やイベント等の活動を動画や画像で分かりやすく紹介していきます。

4 居宅介護支援事業

1. 要介護者給付管理状況

(給付管理件数)

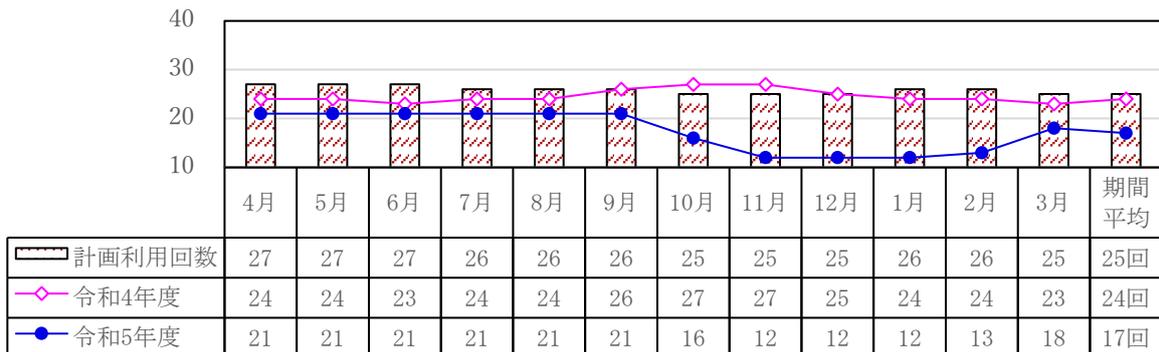
(単位:件数)



2. 介護予防給付管理状況

(給付管理件数)

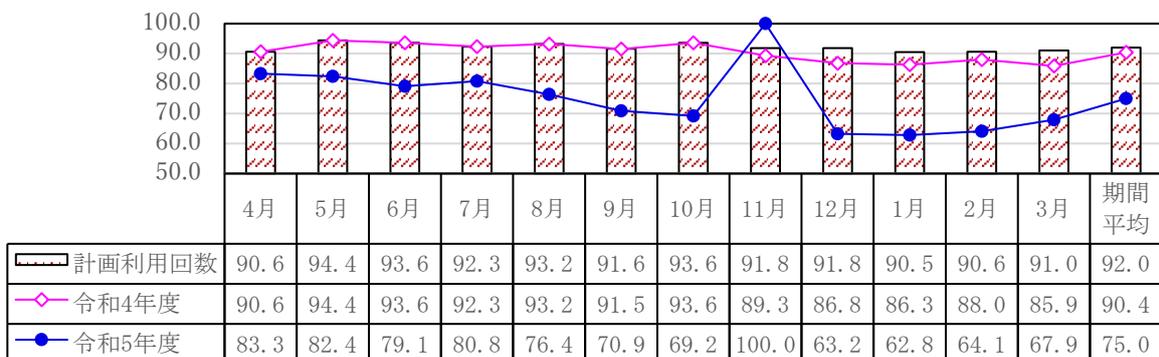
(単位:件数)



3. 介護保険担当者状況

(稼働率)

(単位:回%)



※稼働率について

介護給付管理を行える上限(1人あたり39人)に対して、給付管理をした人数の割合を表します。

ただし、介護予防については、1件あたり0.5人とします。

令和5年度の延べ給付管理件数は介護給付897件、予防給付213件になります。

ただし、令和5年4月から令和5年10月及び令和5年12月から令和6年3月までは3名体制のため

$$\frac{(825 \text{ 件} + (201 \text{ 件} \div 2)) \div 117 \text{ 件} \times 11 \text{ カ月}}{(\text{介護給付件数}) \quad (\text{予防給付件数}) \quad (\text{介護支援専門員 3 名} \times 39 \text{ 人})} = 71.9\%$$

稼働率

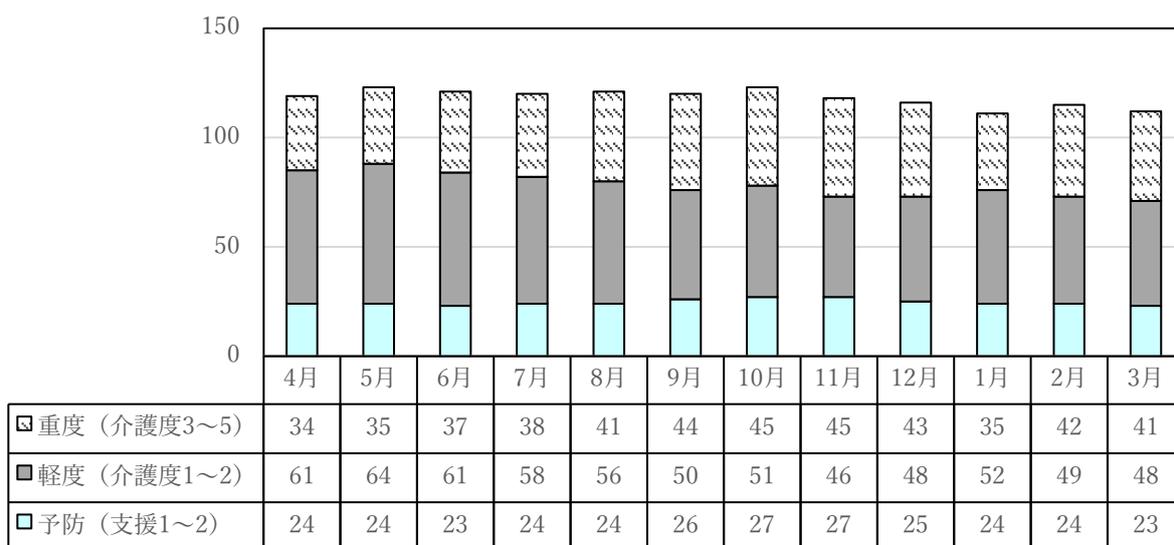
令和5年11月は2名体制のため

$$\frac{(72 \text{ 件} + (12 \text{ 件} \div 2)) \div 78 \text{ 件} \times 1 \text{ カ月}}{(\text{介護給付件数}) \quad (\text{予防給付件数}) \quad (\text{介護支援専門員 2 名} \times 39 \text{ 人})} = 100\%$$

稼働率

4. 区分別利用者状況

(単位:人)



5. 事業報告(総括)

ご利用者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 在宅生活を継続するために必要な、介護保険サービス及び関係する制度について情報提供を行い、その方に合ったサービスを選択できる支援します。 ② 急な変更にも迅速に対応するため、ICTを活用しサービス提供事業者との情報共有やサービスの調整を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護保険及び町内で活用できる、外出や買い物支援、食事支援などのサービスについて、パンフレットやタブレット端末を用いながらサービスの提案を行った。 ② ICTを活用したことで、訪問時や勤務時間外にも法人内サービス事業所との連絡調整をスムーズに行うことができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院時や退院時及び通院時に病院と連携をとり、関係機関と情報を共有します。 ・ 要支援の状態から予防的にサービスを利用していただけよう、サービス利用の効果を発信します。

自立した生活が継続できるよう、四肢の機能、認知機能を維持するための計画を作成します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活上、重要な運動機能(起床動作、立ち上がり、歩行動作など)を維持するため、個々の利用者に応じた機能訓練等が行えるよう支援します。 ② 認知症や認知機能の低下した方への対応について学び、認知症を抱える方やその家族の支援を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 機能訓練指導員と情報を共有し、その方の状態や変化に応じた機能訓練の内容について検討した。 ② 認知症高齢者等見守り支援事業などの情報提供や認知機能維持に有効と思われるサービスや、ご家族の負担を軽減するためのサービスを提案した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動機能と認知機能の低下がみられるご利用者に対し、予防のためのサービスを提案し利用につなげます。

事業継続計画(BCP)に基づき、感染症や災害発生時などにも、サービスを継続できるように事業所の体制を整備します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 緊急時連絡票を定期的に更新するとともに、緊急時にサービス調整がスムーズに行えるようICTの活用について取り組んでいきます。 ② 感染症予防対策を実施するとともに、他の事業所にも働きかけ、ICTを活用した会議の開催や連絡調整を行います。 ③ 関係機関との文書のやり取りを、ペーパーレスすることで、業務の効率化を図ります。 ④ 感染症発生状況に応じて、テレワーク業務や分散業務に切り替え、事業所内で職員が密になる状態を回避し、業務が滞ることがないように努めます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 緊急時に適切な対応がとれるよう、情報を整理し更新した。タブレット端末を活用し、訪問先や勤務時間外でもサービスの変更や調整ができた。 ② 法人内情報共有アプリの活用によりスピーディーに情報共有ができた。他法人事業所とも、オンラインで会議ができるよう、準備を始めた。 ③ ペーパーでのやり取りが減り、書類の保管に係る時間が大幅に削減できた。 ④ 事業所内での感染拡大を予防でき、業務を滞りなく遂行することができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者の生活状況の変化に対応するため、情報収集と情報発信ができるよう取り組みます。 ケアプラン連携システムの導入により、更に業務の効率化を図ります

5 東蒲の里 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	安全対策体制加算対応研修
		誤嚥予防セミナー
		良質な関係づくりのためのコミュニケーションを考える
		安全運転管理者講習会
		現場で活かせる認知症ケア
		認知症介護基礎研修
		第27回新潟県老人福祉施設研究大会
		施設介護支援専門員基礎研修
		正しい DESIGN-R の評価方法を理解し、適切な褥瘡対策とケアの知識を深めよう
		明日から実践できるアクティビティ
		虐待防止に向けた早期発見等対応対策・体制整備
		高齢者虐待防止研修会
		介護技術研修会
		新潟県外国人介護人材定着研修 介護で使う日本語コース
経営戦略セミナー		
ヤングケアラー支援のための講演会		

2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
5月	・感染症、食中毒予防について ・疾患、ご利用者の緊急対応研修 ・危険予知トレーニング	46人	44人	96%
6月	・口腔、栄養、褥瘡ケアについて ・腰痛予防について ・身体拘束について ・危険予知トレーニング	47人	43人	92%
7月	・救急法 ・ハラスメントについて	47人	40人	87%
8月	・セルフメンタルヘルスについて ・苦情について ・プライバシー保護について ・危険予知トレーニング	46人	42人	91%
9月	・個人情報保護について ・虐待防止について ・危険予知トレーニング	46人	41人	89%
10月	・法令順守 ・感染症予防と吐物処理について ・緊急時の事故対応について ・危険予知トレーニング	46人	42人	89%
11月	・看取り介護について ・危険予知トレーニング	45人	40人	85%
12月	・事故事例の検証について ・危険予知トレーニング	46人	39人	83%
1月	・褥瘡予防について ・医療的ケアについて ・危険予知トレーニング	46人	41人	87%
2月	・虐待防止について ・危険予知トレーニング	46人	39人	83%
3月	・危険予知トレーニング	46人	35人	75%

・救急法は法人全体で阿賀町消防署を会場に少人数制で行った。

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

・集合研修や実技研修、Web研修会も行われ、様々な形式で研修が行われた。技術習得研修の他に外国人の職員が安心して仕事ができるように介護で使う日本語の研修に参加した。

② 内部研修

- ・4年度に引き続き集合研修は行わず、動画視聴での研修を行った。各委員会がテーマに沿った様々な動画から選定し研修を実施した。

6 東蒲の里 ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

7 東蒲の里 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
7月19日	・夜間想定避難訓練 夜間に火災が発生した想定で、初期消火訓練・初期消火・避難訓練を実施する。避難訓練後、阿賀町消防本部より消火訓練機器を借用して自主消火訓練を行った。	職員6名
10月17日	・日中想定防災訓練 日中に地震が発生し火災が発生した想定で初期消火訓練・消防署への通報訓練・避難訓練を実施する。避難訓練後、阿賀町消防本部より消火訓練機器を借用して自主消火訓練を行った。	職員11名

2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
6月7日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月12日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

8 東蒲の里 苦情受付・対応報告

<居宅>

1. ご利用者ご家族様より

担当介護支援専門員に電話での連絡は、息子に連絡をするように頼んだが、息子の妻に電話が来ることが多く、妻が困っている。他に頼み事をお願いしたが、介護支援専門員と事業所で話して進めることがあったので、信用できない。また、上川地区に住んでいる介護支援専門員は信用できないので、他の地区に住んでいる介護支援専門員に変えてほしい。

- ・ご家族とも連絡を密に取り、関係性を築くように対応する。
- ・他の居宅介護支援事業所が引き継ぐことになった。

<要因:説明・情報不足>

<特養>

1. ご利用者ご家族様より

本人との面会を終え、施設長と面談をしたいと申出があり、その面談の中で「本人と面会したときに言葉遣いがとても冷たい職員がいる。担当職員を変えてほしい。また、同じことが続かないように、監視カメラを付けてほしい。」と話があった。

- ・担当職員からご利用者本人とご家族に謝罪を行った。
- ・居室内にカメラを設置した。
- ・ご家族とも連絡を密に取り、関係性を気付くように対応することにした。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

事業	件数
特 養	1 件
短期入所	0 件
通所介護	0 件
居 宅	1 件
合 計	2 件

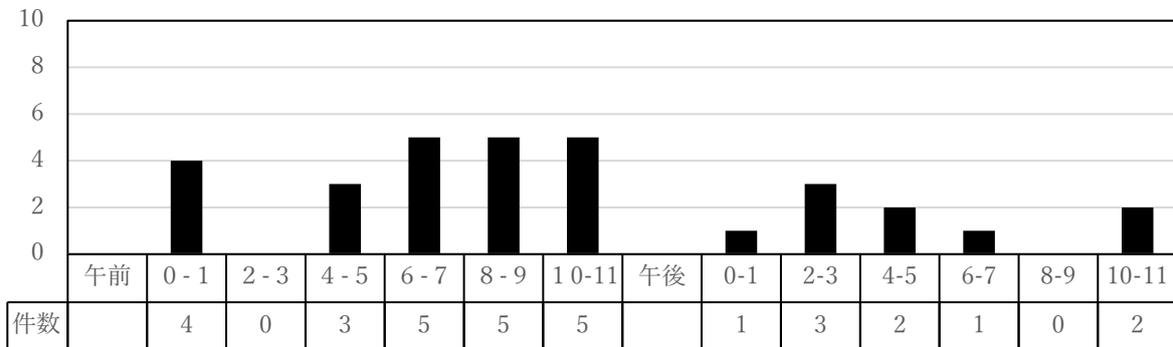
苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1 件
職 員 の 態 度	0 件
サ ー ビ ス の 質	1 件
サ ー ビ ス の 量	0 件
権 利 侵 害	0 件
そ の 他	0 件
合 計	2 件

9 東蒲の里 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数

(単位:件数)



〈 発生件数合計 31件 〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	15件
食堂・ダイルーム	8件
トイレ	1件
廊下・玄関	4件
浴室	2件
施設外	0件
その他	1件
合計	31件

3. 内容別発生件数

発生場所	件数	内 阿賀町へ報告
転倒・転落	5件	2件
骨折	6件	6件
裂傷	2件	0件
打撲・皮下出血	2件	2件
チューブ抜去	9件	8件
無断外出	0件	0件
私物紛失・破損	3件	1件
異食・誤飲	0件	0件
誤薬・与薬もれ	4件	4件
車両事故	0件	0件
その他	0件	0件
合計	31件	23件

4. 事故報告

- 令和 4 年度と比較して、10 件増加した。(令和 4 年度 21 件)。経管栄養を使用しているご利用者が増えチューブ抜去が令和 4 年度は 0 件に対し今年度は 9 件と増加した。また、その他の事故については、昨年度と同程度発生している。
- ひやりハット報告書においては、令和 5 年度の報告件数は 46 件と昨年度の 63 件から減少している。事故につながる可能性のある段階で「気づき」の訓練である危険予知トレーニングを継続行います。
- 令和 6 年度は、事故の再発防止策を検討する上で、転倒してもケガが軽減できるような損害軽減策を取り入れ、事故の重大化の防止や見守り機器の見直しに取り組みます。

Ⅲ 令和5年度社会福祉法人東蒲原福社会

東蒲の里みかわ園 事業報告

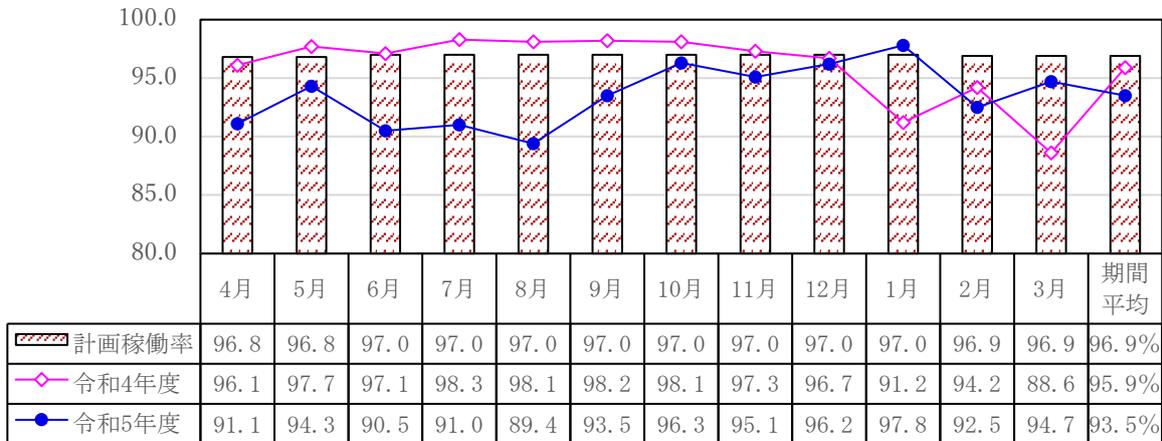
	頁
1. 介護老人福祉施設	27
2. 短期入所生活介護事業	31
3. 通所介護事業	35
4. 通所型サービスA（基準緩和型）	39
5. 高齢者生活支援ハウス	40
6. 新潟水俣リハビリモデル事業	41
7. 外出支援サービス事業	43
8. 東蒲の里みかわ園研修報告	44
9. 東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	45
10. 東蒲の里みかわ園災害対策	46
11. 東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	47
12. 東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	48

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(50人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,511日であったことから

$17,116 \text{ 日} \div 18,300 \text{ 日} (50 \text{ 人} \times 366 \text{ 日}) = 0.9353$ 稼働率 93.5%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(令和6年3月31日現在)

	要介護度					期間平均
	1	2	3	4	5	
令和4年度	0人	0人	5人	26人	19人	4.28
令和5年度	0人	0人	4人	28人	18人	4.28

3. 要介護度状態の変化(令和6年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	1人
維持	42人
悪化	7人
合計	50人

4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月	お花見	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
7月7日	七夕会	・短冊に願いを書いて笹に飾りつけを行った。
8月16日	三涼祭	・新型コロナウイルス感染対策及び風邪ウイルスの蔓延により中止した。
9月17日 23日	敬老会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典及び祝宴は実施せず、会食と賀寿のお祝いの方に花束をプレゼントし、記念撮影を行った。
12月29日	忘年会	・クリスマスの飾りつけや行事食、クリスマスケーキを食べ楽しんでいただいた。
1月1日 ～3日	お正月	・お汁粉や甘酒で、お正月の雰囲気を感じていただいた。
2月	節分	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
3月23日	ひな祭	・新型コロナウイルス感染症対応により、日程は延期となったが、プリンにデコレーションをして食べ、ひな祭りの雰囲気を感じていただいた。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。

5. 事業報告(総括)

ご利用者ケアの質の向上と職員の腰痛予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① エビデンスに基づいた介護サービスを提供できるよう介護情報を活用して、ケアの質の向上に取り組みます。 ② ご利用者に安全安心な移乗動作を行うためにまた、職員の腰痛を予防できる介護機器を取り入れたノーリフトケアに取り組みます。 ③ 介護機器を取り入れることで業務負担の軽減を図ります。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者の状態に合った介護サービスを提供できるよう介護情報を基に職員間で意見交換をしながらケアの質の向上に取り組んだ。 ② スライディングボードを使用して介助することにより職員の腰痛予防やご利用者の体にかかる負担を軽減することができた。 ③ 新たに1台移乗用のリフトを購入し、自立支援型の移乗機器と合わせて、使用方法の研修会を実施した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別援助方法の一覧を継続して作成し、新任職員の育成に取り組む。 ・ ケアの質の向上や統一したケアを提供できるよう職員間での意見交換やコミュニケーションを密に図る。 ・ スライディングボードで移乗するご利用者が増えた為、必要にご利用者に使用しやすいように配置する。 ・ 移乗用リフトや移乗機器の使用・活用が定着するよう定期的に研修会を開催する。

ご利用者の重度化予防及び感染症予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護職員の喀痰吸引資格の取得を推進し、医療的ケアの向上に努め、多職種協働で水分摂取量や栄養状態を管理することで、ご利用者の体調維持に取り組みます。 ② 各種感染症予防のガイドラインに則り感染対策に取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護職員の喀痰吸引の資格取得に向け、実地研修を日々の業務で実施することができた。 医療的ケアについては、ご利用者の身体状況を共有し、看護職員より観察項目や対応策等を周知しながらケアにあたり、ご利用者の体調維持に努めてきたが、持病の悪化による入院者が多い状況があった。 施設内でコロナウイルス感染症が発生したが、クラスターを防ぎ、事態を収束させることができた。 ②
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も施設内で起こりうるコロナウイルス等の感染症に対し、迅速且つ確実に対応ができるよう、感染対策を徹底する。

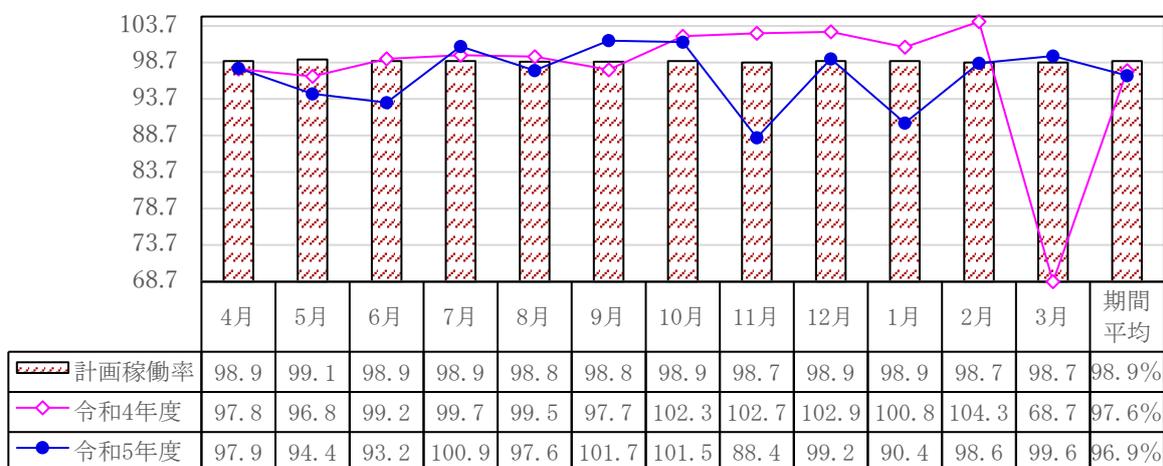
情報共有アプリを活用し職員の連携とご家族への情報発信に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 「情報共有アプリ」を活用して、職員同士の連携やコミュニケーションを図ります。 ② ご利用者の日常の様子などをご家族へ向けて情報共有を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 「情報共有アプリ」を利用して、施設内感染症発生時の情報共有や、各事業からの報告、連絡等、時間を短縮して連携を図ることができた。 ② 面会時にご家族へ、ご利用者の様子を伝えることができた。(直接面会時及びオンライン面会時)
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご家族とご利用者の直接面会ができるようになり、日常の様子などの説明に、ケアマネージャーや看護師だけでなく、担当介護職員が関わり、ご家族との信頼関係が築けるように取り組む。 ・ 異動や新任職員へ職員LINEの登録を、速やかに行えるよう担当者を決めて対応する。 ・ ご利用者の近況や状態報告などにLINEアプリを活用する。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(20人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,094日であったことから

$$7,094 \text{ 日} \div 7,320 \text{ 日} (20 \text{ 人} \times 366 \text{ 日}) = 0.9691 \text{ 稼働率 } 96.9\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

※稼働率が100%を超えている理由について

定員20名を超える利用希望があり、特養の利用者が入院している間、そのベッドを短期入所利用に代えて利用していただいたため、稼働率が100%を超えている状況です。

2. 要介護度別延べ利用日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和4年度	38	91	374	1,436	1,264	1,641	1,631	651	7,126日
令和5年度	70	133	188	1,717	1,565	1,107	1,632	682	7,094日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	57	62	51	55	57	57	54	41	50	53	57	52	53人
延べ利用日数	587	585	559	625	605	610	629	530	615	560	572	617	591日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和4年度	1.73	9.12 日	2.72	12.09 日
令和5年度	1.43	5.26 日	2.56	10.86 日

5. 要介護度状態の変化（令和6年3月31日にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	1 人
維 持	3 人	40 人
悪 化	1 人	7 人
合 計	4 人	48 人

※障害者利用は除く

6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月10日 ～17日	お花見	・入退所の送迎時や、ドライブをしながら桜を見ていただいた。
8月16日	三涼祭	・新型コロナウイルス感染対策のため中止した。
9月16日	敬老会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典及び祝宴は実施せず、行事食を食べ楽しんでいただいた。
12月29日	忘年会	・クリスマスツリーを飾り、クリスマスの行事食を楽しんでいただいた。
1月1日 ～3日	お正月	・お汁粉や、甘酒でお正月気分を感じていただいた。
2月3日	節分	・鬼に扮した職員に豆をぶつけてもらい、楽しんでいただいた。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。

7. 事業報告(総括)

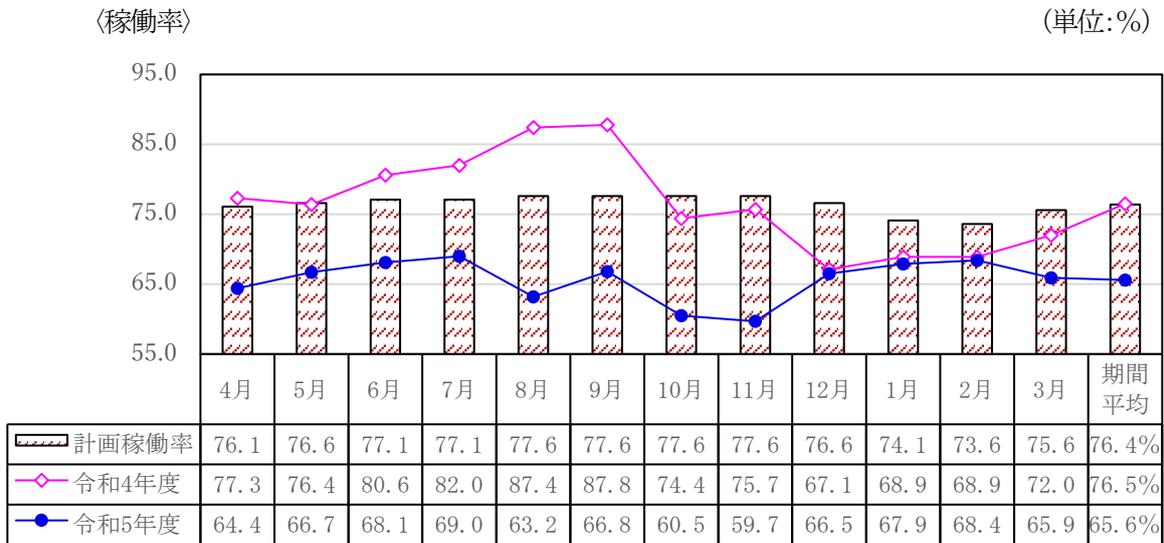
在宅生活が継続できるように支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 安心してサービスを利用してもらえるよう法人内の他事業所（訪問介護や通所介護）と連携して情報共有を図り、在宅生活が継続していけるように取り組みます。 ② 在宅介護が困難な方が利用できるように、当法人内の短期入所サービスと連携して利用調整を図り受け入れます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ZOOM を活用したことで介護職員がサービス担当者会議に参加しやすくなり、施設のサービス状況を関係機関に知っていただく機会が増えた。 ② 入院中に退院許可が出ても在宅復帰が困難な方や、急な介護負担軽減を目的とした利用者の受け入れを当法人内の短期入所サービスが合同で利用調整を行い対応できた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ slackを活用して法人内で利用者状況の共有を図る。 ・ ご利用者が阿賀町で在宅生活の継続ができるように、担当介護支援専門員を通じて、法人内短期入所利用調整会議に他のサービスも交えて利用調整を支援する。 ・ 情報共有アプリを活用して、居宅介護支援専門員に当事業のサービス内容を紹介、知っていただくことで新規利用者の獲得へ繋げていく。

体調の観察と体調維持に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご家族や各事業所と健康状態の情報を共有し、ご利用者が体調を崩さないように努め、体調の変化の早期発見、早期に医療機関へ受診することで、重症化を予防します。 ② ケアマネやご家族へ改善事例等を発信し、元気になれるサービスをイメージしていただけるように取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日の検温とバイタル測定、健康観察を実施し、体調面の把握と異常の早期発見ができ、早めの受診へと繋げることができた。 ② 医療機関との連携を図ってきたことで、重度の方のサービス利用に結びついた。また科学的根拠に基づいた援助を行ってきたことご利用者の状態維持に繋がった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重度の方の受け入れがスムーズにできるように医療機関との連携と情報の把握を継続的に行っていく。 ・ 看取り介護サービス向上のため、事業所内外の研修に参加し、短期入所の看取りに関するマニュアルを作成する。

感染症の予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症の予防を徹底し、感染と蔓延を防ぐことで利用者の安全確保に努めます。 ② ご家族や担当介護支援専門員、他の事業所と情報を共有し、感染リスクの軽減と施設内に持ち込まない対応をします。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 家族や担当介護支援専門員、他の事業所と情報を共有して早期対応を行い感染予防に取り組んだ。 ② 新型コロナウイルス感染症の施設内感染によりサービスに影響が出てしまったが、その他の感染症に関しては予防策を行うことで防ぐことができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も入所前の体調確認や利用中のバイタルチェックを徹底し、異常の早期発見、早期対応で各種感染症の予防に取り組む。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率



※稼働率について

1日定員(22人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が5,185日であったことから

$$5,185 \text{ 日} \div 7,898 \text{ 日} (22 \text{ 人} \times 359 \text{ 日}) = 0.6564 \text{ 稼働率 } 65.6\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別延べ利用日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和4年度	42	560	381	2,066	738	624	693	534	5,638 日
令和5年度	38	516	305	1,982	550	541	479	774	5,185 日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	50	49	48	49	49	47	51	45	50	51	51	49	49 人
延べ利用日数	427	455	449	470	431	440	417	341	453	418	436	449	432 日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和4年度	1.31	6.1 日	2.45	10.4 日
令和5年度	1.21	4.7 日	2.50	10.2 日

5. 要介護度状態の変化（令和6年3月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	0 人
維 持	15 人	32 人
悪 化	0 人	1 人
合 計	15 人	33 人

※基準該当1名を除く

6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
7月1日 ～7日	七夕週間	・短冊に願いを書き飾りつけを行った。
9月18日 ～25日	敬老会週間	・利用者の皆さんにプレゼントを贈りお祝いした。
11月	作 品 展	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
12月	忘 年 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。

7. 事業報告(総括)

ご利用者・ご家族のニーズにこたえられる取組みを行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者及びご家族への精神的な支援や相談に努め信頼関係を築いていきます。 ② ご家族からの要望やアンケート結果などから在宅生活が継続できるよう支援します。 ③ 将棋や囲碁、パソコンを使っての動画鑑賞やゲームなど、選択できるプログラムを提供し、興味を持てる環境作りに取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ご家族との信頼関係を築けるよう送迎時に、ご利用者の健康面や身体状況等を報告して助言を行った。 ② ご家族からの要望やアンケート結果から、送迎の希望時間や希望日、利用回数の調整を行った。 ③ 大型モニターを導入し、歌謡曲の動画の鑑賞や脳トレを行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅での生活が継続できるようご利用者の健康面や不応行動の対応方法などの相談を行い、ご家族の不安を軽減する取組みを継続して行う。 ・ 継続して利用していただけるよう、希望に応じて短時間の利用から始める取組みを行う。

認知症の方の生活能力が向上できるように努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員が認知機能を理解し、症状別の根拠に基づいた認知症ケアを実践します。 ② 目標を設定して役割を担っていただくことでご利用者のやる気を引き出し、自分でできることが増えたことを実践できるよう、認知機能改善プログラムに取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の方個々の症状を把握し、症状別に統一したケアの取り組みができた。 ② ご利用者個々に対し、活動の中で役割を設けることで意欲を持った生活に繋げる取組みを行った。自ら時間を確認して役割の実施をするなどの効果が見られた。大型モニターを使った認知機能予防のプログラムを取り入れたことにより、多くのご利用者に参加していただけるようになった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後もお利用者の希望や生活環境の変化に応じた、ニーズを把握し、喜びを感じ意欲的に参加できるプログラム活動に取り組む。

効果的な機能訓練を実践してご利用者ご家族の生活を支えられるよう努めます。	
取組事項	<p>① ご利用者個々の生活に重要なニーズを意識した生活機能訓練計画を作成し、運動・口腔ケア・栄養ケアを一体的に実践しながら、自立支援に取り組みます。</p> <p>② ご利用者、ご家族に機能訓練の効果について、改善事例を紹介して意欲を引き出しながら機能訓練が行えるように取り組みます。</p>
実績	<p>① 運動機能、口腔・栄養状態の把握するためにスクリーニングを行った。 栄養状態について、ご家族から自宅での状況を確認して、施設でのケアに繋げることができた。</p> <p>② ご利用者に運動による効果を具体的に説明することで現在の状態を確認して頂き、明確な目標を持った機能訓練が実施できた。訓練の実施状況やリハビリ内容を、ご家族に説明することができた。ご利用者にも成果が表れた際に説明し、効果を実感することで、意欲的に継続して取り組んでいただけるようになった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち着いてリラックスできる環境を作ることで、心身のバランスが整えられ、より効果的なリハビリが実践できるよう取り組む。

4 通所型サービスA(基準緩和型)

1. 通所型サービスA利用状況

	新規 登録者数	登録者数	登録 終了者数	事業日数	延べ 利用者数	1日平均 利用者数
4月	0人	6人	0人	4日	22人	5.5人
5月	0人	6人	0人	3日	16人	5.3人
6月	1人	7人	0人	4日	25人	6.2人
7月	0人	7人	0人	4日	27人	6.7人
8月	0人	7人	0人	4日	25人	6.2人
9月	0人	7人	0人	4日	27人	6.8人
10月	0人	7人	0人	4日	28人	7.0人
11月	0人	7人	0人	4日	28人	7.0人
12月	0人	7人	0人	4日	28人	7.0人
1月	0人	7人	0人	3日	19人	6.3人
2月	0人	7人	0人	4日	24人	6.0人
3月	0人	7人	0人	3日	18人	6.0人
期間統計	1人		0人	46日	287人	6.4人

5 高齢者生活支援ハウス

1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月 間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月 間 入居者数
4月	0	0	5	10月	0	1	4
5月	0	0	5	11月	1	0	5
6月	0	0	5	12月	0	0	5
7月	0	0	5	1月	0	0	5
8月	0	0	5	2月	0	0	5
9月	0	0	5	3月	0	0	5
				合 計	1人	1人	5人

2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流や地域との交流のため、行事の企画と参加を支援した。

開催日	行 事
8月28日	暑気払い
9月15日	敬老 月見会
9月22日	お彼岸 食事会
12月22日	クリスマス会
1月12日	小正月 だんご飾り
2月2日	節分豆まき
3月1日	ひな祭り
3月20日	お彼岸 茶話会

3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	入居者数
デイケア	2人
デイサービス・訪問介護	2人

6 新潟水俣病リハビリ事業

1. らっくり体ケア教室利用状況

	新規 登録者数	登録者数	登録 終了者数	事業日数	延べ 利用者数	1日平均 利用者数
4月	0人	69人	0人	20日	223人	11.1人
5月	0人	69人	2人	20日	222人	11.1人
6月	0人	67人	1人	22日	250人	11.0人
7月	0人	66人	1人	20日	220人	10.6人
8月	0人	65人	0人	19日	197人	10.3人
9月	1人	66人	0人	20日	211人	10.5人
10月	0人	66人	0人	21日	213人	11.6人
11月	1人	66人	1人	20日	213人	10.6人
12月	2人	67人	0人	20日	204人	10.2人
1月	0人	67人	0人	19日	185人	9.7人
2月	0人	67人	0人	19日	190人	10.0人
3月	0人	67人	0人	11日	111人	10.0人
期間統計	4人		5人	231日	2,439人	10.5人

※1日定員:15人(1人週1回利用)祝祭日を除く、月曜日～金曜日実施。

2. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月10日 ～14日	お花見	・麒麟山公園へ行き花見を楽しんでいただいた。
5月22日 ～26日	お楽しみ会	・お焼きを食べていただいた。
6月26日 ～30日	お楽しみ会	・アイスクリームなどを食べていただいた。
7月3日 ～7日	七夕会	・短冊を書いて飾り、七夕にちなんだお菓子を食べていただいた。
8月21日 ～25日	お楽しみ会	・あみだくじ(運試し)を行い参加者に景品をプレゼントした。
9月25日 9月29日	敬老会	・祝い寿の該当者に記念品を贈呈。お昼に参加者に赤飯を食べていただいた。
10月23日 ～27日	お楽しみ会	・ハロウィンにちなんだお菓子の詰め合わせをプレゼントした。
11月9日 ～14日	お楽しみ会	・「阿賀町ひとり」の曲に合わせた体操を保健師に指導していただいた。
12月18日 ～22日	クリスマス会	・折り紙でカップケーキ作成を行った。 シュークリームなどを食べていただいた。
1月4日 ～11日	新年会	・カルタ取り大会を行い、新年会を楽しんでいただいた。
2月5日 ～9日	節分	・職員が鬼役となり、豆まきを行った。
3月4日 ～8日	ひな祭り会	・お昼にちらし寿司を食べていただいた。

7 外出支援サービス事業

1. 外出支援事業利用状況

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間実績
利用件数		4	5	8	6	6	8	8	7	9	8	6	8	83件
地域	郡内	3	3	8	3	5	5	8	5	8	5	4	7	64件
	郡外	1	2	0	3	1	3	0	2	1	3	2	1	19件

2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	78件	74件
転院移送	0件	0件
退院移送	7件	6件
入院移送	1件	1件
ワクチン接種会場へ移送	2件	2件
合計	88件	83件

月平均利用件数	7件
一件の平均距離	51.9 km
一件の平均所要時間	3.0 時間

8 東蒲の里みかわ園 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	高齢者虐待防止修会
		喀痰吸引等研修会
		安全運転管理者等講習会
		認知症介護基礎研修
		新型コロナウイルス感染症に関する高齢者及び障害者施設向け感染予防講習会
		褥瘡予防対策研修会
		経営戦略セミナー

2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
5月	・食中毒について(施設での食中毒予防)	55人	55人	100%
	・身体拘束、高齢者虐待についてI	55人	55人	100%
6月	・PPE 着脱訓練	55人	55人	100%
	・褥瘡予防について	55人	55人	100%
	・防災マニュアルについて	55人	55人	100%
7月	・救急法	55人	54人	98.2%
9月	・リスクマネジメントについてI	55人	53人	96.4%
	・倫理及び法令遵守、個人情報保護、虐待予防について	55人	55人	100%
10月	・身体拘束、高齢者虐待についてII	55人	55人	100%
11月	・「口腔ケアについて」	55人	55人	100%
12月	・腰痛予防について	55人	55人	100%
1月	・ターミナルケアについて	55人	55人	100%
2月	・リスクマネジメントについてII	55人	55人	100%
3月	・ハラスメントについて	55人	55人	100%

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、資料配布や動画閲覧での研修方式で実施した。
- ・救急法は、法人全体で阿賀町消防署を会場に少人数制で行った。

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

- ・前年度に続き、コロナ禍で Web 研修会が主流となった。
- ・救急法は、阿賀町消防署において人数制限を設け、法人内施設合同で実施した。

②内部研修

- ・Web 研修が主流となり、各委員会で Web 上での動画の選定や設問を準備し、研修期間を二週間程度に設定することで参加しやすくし、知識・技術の習得に努めた。
- ・今年度、PPE 着脱訓練を実施し、感染しない・させない着脱法の習得に努めた。

9 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染症予防対策のため、ボランティアの受け入れを中止した。

10 東蒲の里みかわ園 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月16日	・火災想定避難訓練 日中に火災が発生した想定で、初期消火訓練・通報訓練・避難訓練を実施し、阿賀町消防本部の講評後、消火訓練を行った。	職員 14 名
10月27日	・火災想定避難訓練(支援ハウス・水俣リハビリ事業) 日中に火災が発生した想定で、初期消火訓練・通報訓練・避難訓練を実施し、阿賀町消防本部の講評後、消火訓練を行った。	職員 7 名 利用者 14 名
2月16日	・火災想定避難訓練 夜間に火災が発生した想定で、初期消火訓練・通報訓練・避難訓練を実施した。	職員 9 名
2月16日	・土砂災害及び地震災害避難訓練 日中に土砂災害及び地震災害が発生した想定で避難訓練を実施した。	職員 21 名

2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
6月7日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行った。
12月12日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

11 東蒲の里みかわ園 苦情受付・対応報告

苦 情

<通所>

1.ご利用者ご家族より

デイサービス内で一番近いトイレに利用者が並んでいた為、職員用トイレを使用しようとしたが、女性職員に「そこはだめだよ」と言われて、本人は我慢しながら帰って来たらしく、お漏らしをしていた。90歳を過ぎたお年寄りにそういう対応をしているのか。

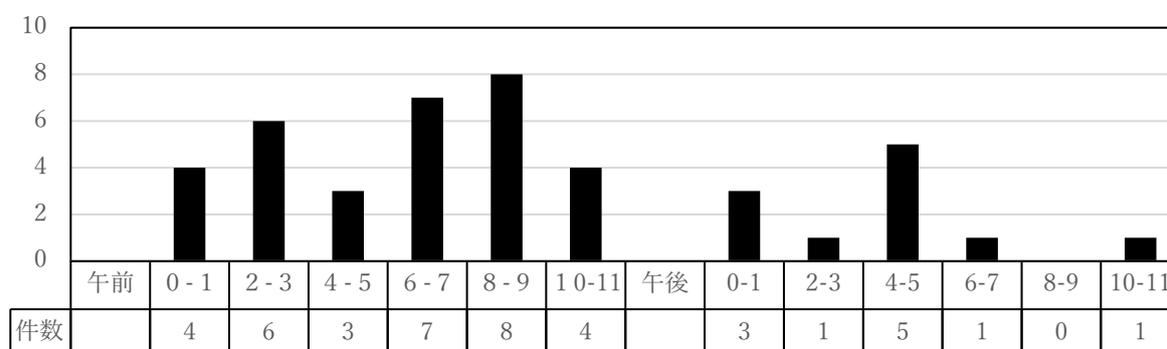
- ・不快な思いをさせたことに対し、謝罪を行った。
- ・ご家族へ感染対策の為、やむなく使用の制限をしていたこと、混雑しないように分散してトイレ誘導を行っていたことを伝える。
- ・ご家族より、感染対策を実施している場合でも、トイレを我慢するようなことが無いように対応してほしいと話があった。

<要因:説明・情報不足>

12 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数

(単位:件数)



〈 発生件数合計 43件 〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	28件
食堂・ダイルーム	8件
トイレ	1件
廊下・玄関	3件
浴室	2件
施設外	1件
その他	0件
合計	43件

3. 内容別発生件数

発生場所	件数	阿賀町へ報告
転倒・転落	5件	0件
骨折	9件	9件
裂傷	5件	0件
打撲・皮下出血	9件	0件
チューブ抜去	4件	0件
無断外出	0件	0件
私物紛失・破損	2件	0件
異食・誤飲	0件	0件
誤薬・与薬もれ	2件	2件
車輛事故	1件	0件
その他	6件	0件
合計	43件	11件

4. 事故報告

- ・前年度(48 件)と比較して令和 5 年度は、5 件減少し、ヒヤリハット報告書については、79 件の提出があった。車両事故については、8 件から 1 件に減っているが、骨折事故が 9 件と増加した。
- ・事故の要因を分析し、個別の援助方法を見直すなど、全職員に対策を周知徹底して再発防止に取り組めます。

IV 令和5年度社会福祉法人東蒲原福祉会

ケアセンターどんぐり 事業報告

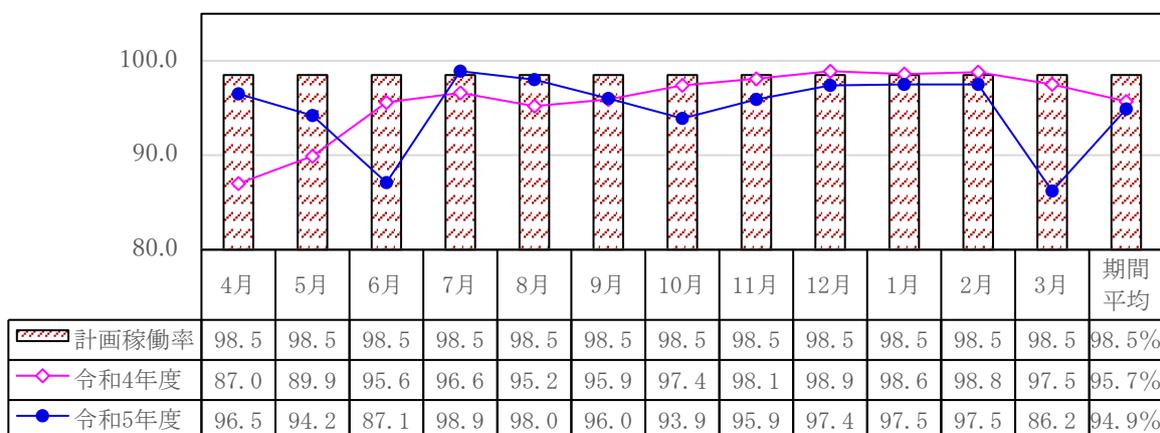
	頁
1. 短期入所生活介護事業	50
2. 訪問介護事業（介護保険）	54
3. 小規模多機能型居宅介護事業	59
4. 認知症対応型共同生活介護	64
5. 障害福祉サービス事業	68
6. まごの手サービス（介護保険外事業）	68
7. ケアセンターどんぐり研修報告	70
8. ケアセンターどんぐり災害対策	72
9. ケアセンターどんぐり苦情受付・対応報告	73
10. ケアセンターどんぐり事故等発生状況報告	74

1 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(21人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,298日であったことから

$7,298 \text{ 日} \div 7,686 \text{ 日} (21 \text{ 人} \times 366 \text{ 日}) = 0.949$ 稼働率 94.9%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 要介護度別延べ利用日数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
令和4年度	165	23	1,552	680	3,168	1,626	128	7,342日
令和5年度	154	126	1,137	753	2,657	2,193	278	7,298日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	51	51	47	47	47	48	49	42	40	44	39	41	46人
延べ利用日数	608	613	549	644	638	605	611	604	634	635	596	561	608日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
令和4年度	1.11	3.7日	2.54	13.3日
令和5年度	1.24	7.6日	2.87	13.8日

5. 要介護度状態の変化(令和6年3月31日にご利用されている方を対象とします。)

内容	要支援	要介護
改善	1人	1人
維持	1人	38人
悪化	0人	7人
合計	2人	39人

6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
8月3日	納涼会	・お祭りの雰囲気を感じてもらえるような音楽をかけ、職員による御神輿を披露した。ゲームに参加していただき、当たった景品に喜ばれていた。
9月22日	敬老会	・理事長から祝辞をいただき、慶祝者に色紙と記念品を贈呈した。ご利用者には記念品と職員の手作りメッセージカードを贈り、涙を流され喜ばれる方もいた。
11月17日	秋の味覚祭	・具沢山の豚汁と炊き込みご飯を召し上がっていただき秋の味覚を味わった。余興のゲームを楽しまれ、モンブランケーキを召し上がってもらった。
12月21日	クリスマス忘年会	・クリスマスの歌を歌い、クリスマスプレゼントを喜んでいただくことができた。
1月8日	団子さし	・団子さしの木にご利用者と飾り付けを行い、小正月を祝うことができた。
2月2日	節分	・鬼に扮した職員にご利用者が豆をまき、鬼退治を行った。おやつにどら焼きを召し上がってもらった。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

7. 事業報告(総括)

ご利用者やご家族に安心して利用いただける事業所を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者に対する言葉使いや態度などに気をつけ、安心できる対応を身に付けます。 ② ご利用者やご家族の要望に耳を傾け、可能な限り要望に応え安心と信頼に繋がるよう努めます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 処遇の時にご利用者への声かけが足りないことがあり不安感を与えることがあった。また、ご利用者との会話には馴染のある方言などを交えているが、言葉遣いや態度については不快な思いを与えないよう事業所会議で話し合い実施した。 ② 送迎時にご家族との会話を心掛け、自宅での様子や要望を伺うことができた。要望については、職員間で共有を図り対応を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節度ある対応を継続することで今後も信頼関係を構築していく。 ・ 接遇に関する研修などに参加する。

災害や感染症に対応できる体制を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害が発生した場合を想定し、対策マニュアルに基づいて行動できるよう訓練を行います。 ② 感染症が発生した場合は、状況把握に努め感染が拡大しないよう適切な対応を行います。 ③ 福祉従事者として感染症予防対策を継続します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 防災委員の計画のもと、初動から一つひとつ動きを確認しながら避難訓練等を実施することができた。 ② 新型コロナウイルス感染症が2月末から3月下旬にかけて発生した。濃厚接触者に該当したご利用者の感染以外に、職員2名が感染したため、感染予防対策が不十分だったと認識した。終息後に事業所会議で振り返りを行った。 ③ 福祉従事者として年間を通し基本的な感染予防対策を徹底し業務以外で感染することは無かった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害や感染症が発生しても問題なく対応していくことが出来る様に、マニュアルに沿った研修や訓練を実施する。

ICT を活用した情報共有を行い、統一したケアの提供を目指します。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者やご家族からの要望に応えるために、ICT を活用した情報共有を図り、統一したケアの提供を行います。 ② 業務の改善や課題の早期解決のため、ICT の活用で業務の効率化に取り組めます。 ③ 介護現場の生産性向上のため、介護テクノロジー機器の導入に向けた検討を行います。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ① Slack の活用による情報共有が定着したことで、ご利用者やご家族からの要望を共有し、統一したケアの提供を行うことができた。 ② 業務時間内に介護記録ソフトに入力する時間が作れるよう検討を行い改善したが、ソフトに入力するまでに紙媒体を使用しているものがあるため ICT の活用が進まなかった。 ③ 介護テクノロジー機器の導入に向けた検討や取り扱っている会社からオンラインで説明を受けたが、導入の条件など定めていなかったため機器の選定ができなかった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場の状況に合わせた ICT や介護テクノロジー機器を導入し、ご利用者に関わる時間の見直しや職員が働きやすい事業所を作るための取組を行う。

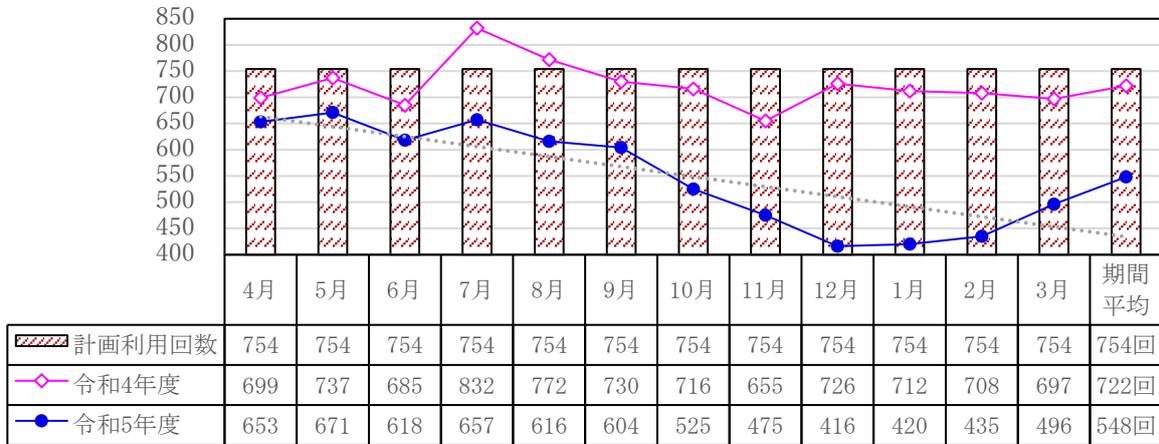
介護技術の向上と専門性を身につけるための資格取得を目指します。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護職員が行える医療的ケアの実施を可能にするため、喀痰吸引等研修を受講します。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員2名に喀痰吸引等研修を受講してもらった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術や専門性を身につけるため医療的ケアだけではなく、認知症に関する研修に参加していく。

訪問介護事業(介護保険)

1. 訪問介護月別実績状況

(訪問回数)

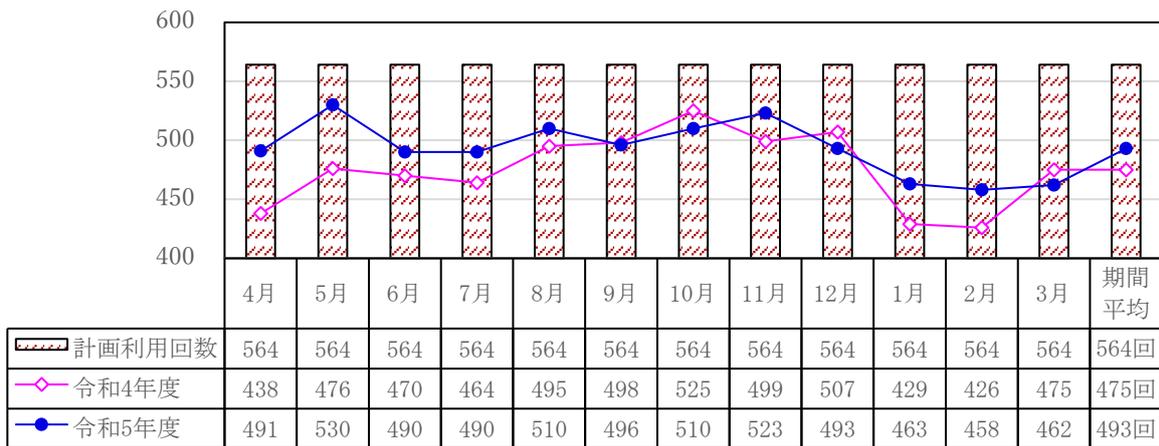
(単位:回)



2. 予防訪問介護月別実績状況 ※計画利用回数には事業対象者が含まれています。

(訪問回数)

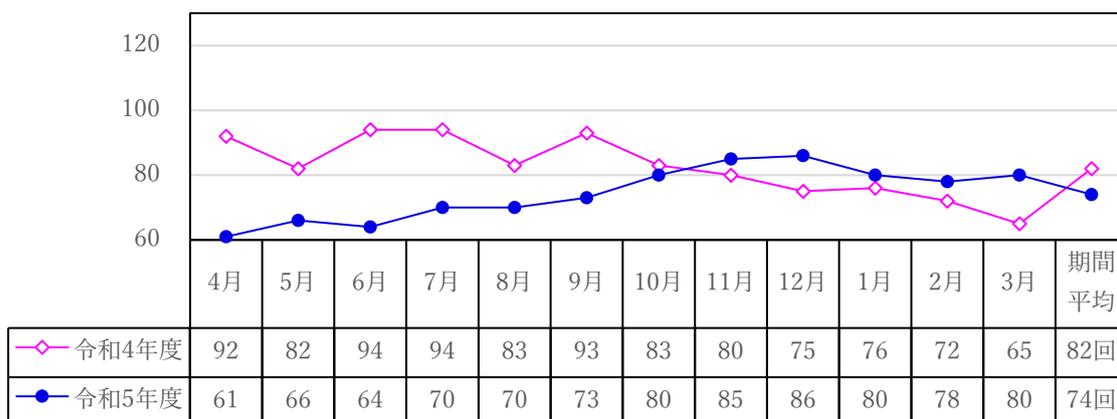
(単位:回)



3. 事業対象者訪問月別実績状況

(訪問回数)

(単位：回)



4. 月別利用状況(予防訪問介護事業及び事業対象者訪問介護事業含む)

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4月	125人	1,199回	55回	1,144回	95.4%
5月	122人	1,274回	73回	1,201回	94.2%
6月	121人	1,216回	108回	1,108回	91.1%
7月	118人	1,222回	75回	1,147回	93.8%
8月	116人	1,210回	84回	1,126回	93.0%
9月	117人	1,189回	89回	1,100回	92.5%
10月	115人	1,146回	74回	1,035回	90.3%
11月	118人	1,075回	77回	998回	92.8%
12月	112人	1,001回	92回	909回	90.8%
1月	108人	946回	63回	883回	93.3%
2月	110人	955回	62回	893回	93.5%
3月	111人	1,033回	75回	958回	92.7%
計	1,393人	13,466回	927回	12,502回	—
平均	116人	1,122回	77回	1,041回	92.8%

※稼働率について

予約を100%とし、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを表します。

利用実績が12,502回で、予約数が13,466回であったため、

$12,502 \text{ 日 (利用実績)} \div 13,466 \text{ 日 (予約回数)} = 0.928$ 稼働率 92.8%

5. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4月	4人	0	0	0	0	0人
5月	1人	2	0	0	2	4人
6月	2人	1	1	0	2	4人
7月	5人	1	2	2	1	6人
8月	2人	1	0	0	1	2人
9月	1人	1	1	1	1	4人
10月	5人	1	0	0	0	1人
11月	6人	3	0	0	1	4人
12月	1人	1	0	0	0	1人
1月	0人	1	0	0	0	1人
2月	5人	3	0	1	0	4人
3月	3人	4	0	1	0	5人
計	35人	19人	4人	5人	8人	36人

6. 要介護度別延べ利用回数

	事業 対象者	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和4年度	989	3,889	1,805	2,648	1,514	1,889	2,211	408	15,353回
令和5年度	893	2,937	2,086	2,124	1,165	1,496	1,434	367	12,502回

7. 平均介護度及び平均利用回数

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数
令和4年度	1.20	6.3回	2.16	8.6回
令和5年度	1.28	4.5回	2.47	4.6回

8. 事業報告(総括)

お互いを思いやり、信頼し合える職場環境づくりに取り組みます。	
取組事項	① 挨拶や周囲への気遣いを心掛け、お互いを高め合える職員を目指します。
実績	① 6月検討会でコミュニケーション研修「言葉がもたらす効果とは」の内容を実施した。一部職員がご利用者への言葉掛けで気持ちに寄り添えず、不快な気持ちにさせてしまった事があったため指導不足だったため、ご利用者の個々のケースに応じた声掛けが実践できるよう指導を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちに寄り添った声掛けができるようになる。 ご利用者・職員同士が気持ちのよい挨拶ができるようになる。

「また来てほしい」と思っただけの訪問介護サービスを提供します。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> ① ご利用者やご家族の思いを汲み取れるよう、対人コミュニケーションスキルの向上を目的とした研修を実施します。 ② できることを奪わないケア(見守りの支援・自立支援介護)を実践し、生活力の維持向上を図ります。 ③ ご利用者一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好の情報の共有を行い、ケアの質の向上に繋がります。 ④ ご利用者の状態変化に合わせ、柔軟にサービス内容の見直しを行い、迅速に対応します。
実績	<ol style="list-style-type: none"> ① 令和4年度に実施したお客様満足度調査の結果を4月の研修で把握した。5月には「訪問介護におけるコミュニケーション」の研修を実施し、コミュニケーションスキルのアップに繋げ、訪問に活かしている。 ② 9月、11月に外部研修に参加。見守りの支援、自立支援介護について、訪問介護員・サービス提供者からの視点でサービス提供のあり方を学べた。 復命を検討会で伝え、職員間での共有を図れた。 ③ アセスメントや訪問報告からご利用者の生活歴や趣味、嗜好を把握。訪問介護員による詳細な報告も数多く挙がり、ご利用者の生活力向上について検討を図ることができた。 ④ 毎月の検討会でご利用者について、サービス内容の確認と見直しを行った。 Slackアプリを活用することで、ご利用者様への迅速な対応をとることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 職員は介護サービス提供に対する「プロフェッショナル」であることの自覚を持ち、取り組みを継続する。

災害や感染症発生時でも、サービスが滞ることなく提供できる体制を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① エッセンシャルワーカーとしての自覚を持ち、感染予防対策を継続します。 ② 訪問介護独自の災害・感染症発症時マニュアルを作成し、マニュアルに沿って訓練を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 日頃より培った感染予防対策が身についてきている。コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことにより、対応の仕方も変化しているが、その都度確認しながら対応をとることができた。 ② 年間研修計画に BCP 計画に沿った訓練を盛り込み、机上訓練形式で初めて取り組みを行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ BCP の訓練を継続して行うことにより、有事の場合、皆が訓練どおりに考え、動けるようになる。

ICTの活用により業務の効率化を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員個々の IT 機器の操作スキル向上に努め、生産性を高めます。 ② 紙で管理している書類のペーパーレス化に取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員個々でのタブレット操作やパソコン操作について、不明な点は、直ぐに聞く等の姿勢がみられた。 ② 訪問介護手順書を紙で作成していたが、全てシステムに移行した。タブレットでの確認が可能となり、事務所へ足を運ばず、業務効率化を図ることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙で作成している様式のペーパーレス化を継続する。

3 小規模多機能型居宅介護事業

1. 介護度別登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
要支援1	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2.7人
要支援2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1.4人
要介護1	10	10	9	9	10	9	8	8	9	9	9	9	9.1人
要介護2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.2人
要介護3	7	6	7	7	7	6	5	6	6	6	6	6	6.2人
要介護4	0	0	0	0	0	2	4	3	3	3	3	2	1.7人
要介護5	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	1	2.0人
合計	24	23	24	23	25	25	24	24	25	25	25	24	24.3人
稼働率	96.0	92.0	96.0	92.0	100	100	96.0	96.0	100	100	100	96.0	97%

※稼働率について

登録定員(25人)を100%とした場合の実登録者の割合を表しています。

1年間の延べ利用者数が291人であったことから

$291 \text{人(延べ利用者数)} \div 300 \text{人(登録定員 25人} \times 12 \text{カ月)} = 0.97$ 稼働率 97.0%

2. サービス別稼働実績

(1) 訪問サービス

〈訪問回数〉

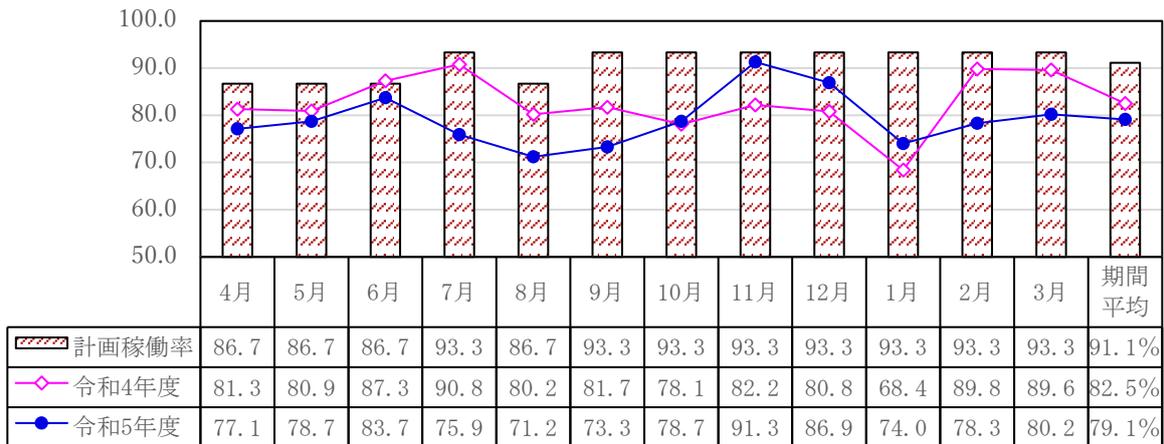
(単位:回)



(2) 通いサービス

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

通いサービスの1日定員(15人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表しています。

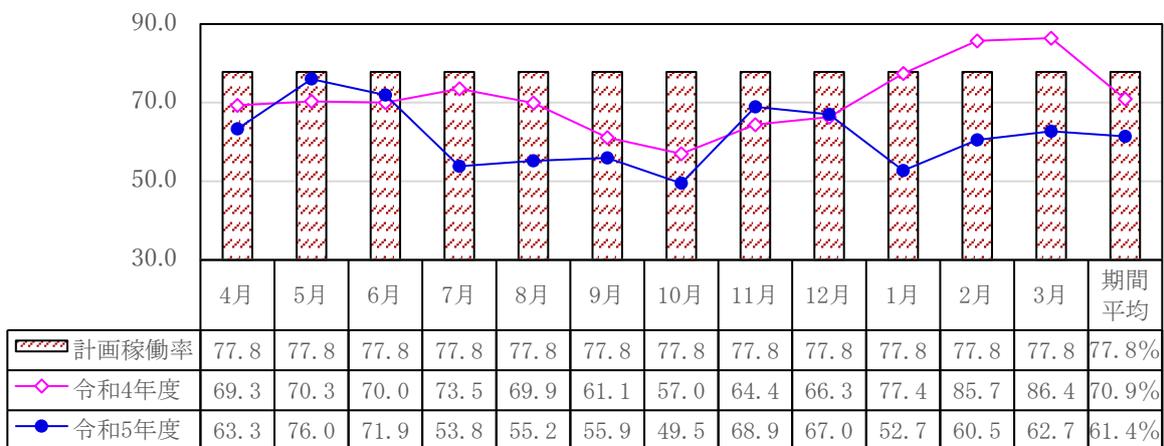
1年間の延べ利用人数が4,343人であったことから

$$4,343 \text{ 人 (延べ利用人数)} \div 5,490 \text{ 人 (定員 15 人} \times \text{実稼働日数 366 日)} = 0.791 \text{ 稼働率 } 79.1\%$$

(3) 泊まりサービス

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

泊りサービスの1日定員(9人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表しています。

1年間の延べ利用人数が2,023人であったことから

$$2,023 \text{ 人 (延べ利用人数)} \div 3,294 \text{ 人 (定員 9 人} \times \text{実稼働日数 366 日)} = 0.614 \text{ 稼働率 } 61.4\%$$

3. 平均介護度

	要支援	要介護
令和4年度	1.47	1.99
令和5年度	1.35	1.93

4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月	観桜会 ドライブ	・4月10日から22日までの期間、天候のよい日に上川地区でのお花見やドライブで楽しんでいただいた。
8月	納涼会	・3月24日、25日の2日間開催。職員による御神輿や景品付きのゲームに参加していただき楽しんでいただくことができた。
9月	敬老会	・理事長より祝辞をいただき、慶祝者、当日ご利用者への記念品贈呈や記念撮影などでお祝いした。他ご利用者へは利用日に記念品をお渡した。
10月	紅葉見学	・鹿瀬方面やハーバルパークへのドライブで紅葉見学をしていただいた。
11月	秋の味覚祭	・とん汁や天ぷら、おやつには大判焼きを召し上がっていただいた。当日ご利用されなかったご利用者様にはお弁当を配らせていただき、秋の味覚を楽しんでいただいた。
12月	クリスマス忘年会	・職員がサンタに扮装し、ご利用者にプレゼントを渡した。職員の余興を楽しんでいただき、おやつにはケーキを召し上がってもらった。
1月	団子さし	・事前に作成してもらった飾りを、ご利用者様に木に飾っていただいた。記念撮影を行い地域の季節行事を楽しんでいただいた。
2月	節分	・鬼に扮した職員に向けて、ご利用者が豆をまき鬼退治していただいた。職員による寸劇を楽しんでいただいた。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

5. 事業報告(総括)

ご利用者や家族が安心できるサービスの提供を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 「今日も来てよかった。」「訪問してもらってよかった。」と思っ ていただけるよう、笑顔で気持ちの良い挨拶を心掛けます。 ② ご利用者の趣味や自由を尊重し、利用者が何をしたいの か考え、自ら行動に移せる職員を目指します。 ③ 外部研修への参加や施設内研修で、コミュニケーション能 力と専門職として知識を身につけ、根拠に基づくサービス 提供に努めます。 ④ 専門職として各種資格の取得に努めます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員が個々に、ご利用者一人ひとりに声を掛けながら気持 ちのよい挨拶をすることができていた。 ② ご利用者が在宅での生活が継続できるよう、またご本人の 希望を確認しながら積極的な歩行訓練や生活動作でのリ ハビリに取り組むことができた。 ③ 必要とされる新任職員の基礎研修についてはオンラインを 活用した研修に参加した。その他の外部研修への参加は できなかったが事業所会議やミーティングにおいて医療と 介護の両面からご利用者一人ひとりについて根拠のあるケ アを検討することができた。 ④ 職員2名が認知症介護基礎研修を修了した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修への積極的な参加で、専門職としての知識を習得し、 ご利用者個々のケアについて充実できるように努めます。

感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが継続的に提供できる体制を構築します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① エssenシャルワーカーとしての自覚を持ち、感染予防を徹底します。 ② 感染予防についての取り組みの継続と、感染症が発生した場合のシミュレーションを行います。 ③ 災害対策マニュアルに基づいて動けるよう訓練を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間を通して基本的な感染予防を行った。コロナウイルスに感染した職員数名いたが、感染拡大については防ぐことができた。 ② 感染症が発生した場合でも、感染予防の徹底で事業を継続することができた。 ③ 防災委員の計画のもと、災害訓練を実施した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症や、災害を想定した訓練の実施を行っていく。

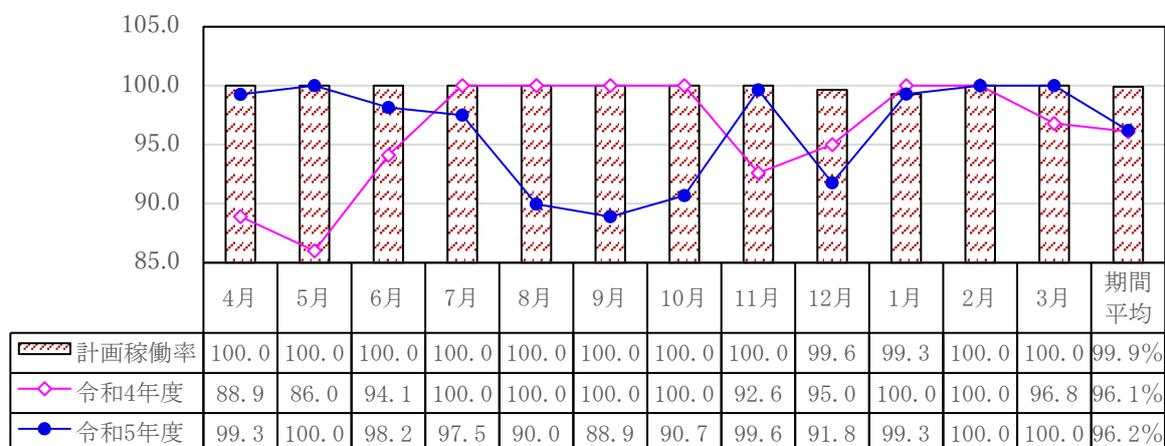
ICTを活用した情報共有で、業務の改善を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護ICT機器導入検討を行えるよう、情報収集や機器の理解に努めます。 ② オンライン会議やICTを活用した情報共有で、業務の改善を図り、介護サービスの生産性を高められるよう取り組んでいきます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ICT機器についての情報収集は行えたが、機器の選定には至らなかった。 ② 会議や内部研修についてはオンラインを活用して参加することができた。事業所職員がスラックを活用し情報共有することで業務の効率化が図れた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場の状況に合わせた介護テクノロジー機器を導入する。

4 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(9人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,170日であったことから

$$3,170 \text{ 日} \div 3,294 \text{ 日}(9 \text{ 人} \times 366 \text{ 日}) = 0.962 \text{ 働率 } 96.2\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(令和6年3月31日現在)

	要支援	要介護度					期間平均
	2	1	2	3	4	5	
令和4年度	0	3	2	2	1	1	2.4
令和5年度	1	5	3	0	0	0	1.3

3. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月	花見	・鹿瀬方面へ花見に出かけ、レイクサイド角神で桜を眺め、車窓からの景色を楽しまれた。
5月	母の日	・母の日のおもてなしとして、職員手作りのどら焼きと羊羹を召し上がっていただいた。
6月	ゼリー作り	・手作りゼリーで涼を楽しんでいただいた。
7月	七夕会	・短冊に願い事を書き、笹の葉に飾り付けていただいた。昼食は流しそうめんを行い、皆さん楽しそうに召し上がっていた。
8月	納涼祭	・射的やヨーヨー釣り、お神輿を楽しんでいただいた。
9月	敬老会	・慶祝者をお祝いした。職員の太鼓演奏を楽しんでいただいた。
10月	ハロウィンパーティ	・ご利用者と職員全員がハロウィンの仮装をし、一緒にたくさんの写真を撮影された。
11月	紅葉狩り	・車窓からの景色を楽しまれながら、鹿瀬方面へドライブに出かけられた。麒麟山公園で写真を撮影された。
12月	クリスマス会 忘年会	・ご利用者にプレゼントをお渡しし、余興として職員のハンドベル演奏を楽しんでいただいた。
1月	小正月団子さし	・色とりどりの紙粘土を団子に見立てて丸め、枝にさしていただいた。
2月	節分	・鬼役の職員に向けて、ご利用者が手作りの豆をまき、鬼退治をし福を呼び込んでいただいた。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

4. 事業報告(総括)

<p>自立支援を意識し、ご利用者の意思を尊重した対応が出来る職員を目指します。</p>	
取組事項	<p>① ご利用者一人ひとりの身体機能を把握し、本人ができることを見守りながら支援を行うよう努めます。</p> <p>② ご利用者の意向を確認しながら、適切な支援は何かを考え検討するとともに、職員間で情報を共有し統一したサービスを提供します。</p>
実績	<p>① 1名の職員が認知症介護実践者研修を受講し、認知症の方の対応に関わる専門性の向上に努めた。研修のカリキュラムとなっている自施設実習の取り組みをとおして、研修で学んだことを全職員で共有し、ご利用者一人ひとりのできることを考え、本人の意思を確認しながら支援を行う姿勢がみられるようになった。</p> <p>② 毎月の事業所会議にてご利用者の心身の状態に応じた日常生活上の支援や対応方法を協議し、本人の了解を得た上で実施した。全職員で統一した対応を行う為、Slackを活用して情報を共有した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症介護研修等、認知症ケアに関する研修への積極的な参加や、各種資格の取得に取り組み、専門職としての知識を深める。

<p>安心して生活ができる環境作りを行いながら、ご利用者の要望を実現するためにチーム全体で取り組みます。</p>	
取組事項	<p>① ご利用者が穏やかな日常生活を送ることができるよう、挨拶を基本とした適切な言葉遣いや周囲への気遣いを心掛けます。</p> <p>② ご利用者の希望を聞きながら、プライベートな空間である居室を過ごしやすい環境に整えます。</p> <p>③ ご利用者やご家族から生活歴や趣味・興味のあること等、細かに情報を収集しご利用者の望む生活の実現のために取り組みを行います。</p> <p>④ ご利用者の身だしなみに気を配り、きれいにしてお過ごしことで QOL の維持向上につなげられるよう支援を行います。</p>
実績	<p>① 個々の状況に合わせた言葉遣いで、ご利用者が不快に感じないよう言動に注意しながらコミュニケーションが図れていた。</p> <p>② 1名のご利用者から要望があり、ベッドやタンスの配置を変更した。その他のご利用者については現状維持の状況だった。</p>

	<p>③ 畑仕事、かご作り等、ご利用者の趣味活動を取り入れることが出来ていた。新規入所のご利用者やご家族からの情報収集が主となり、他のご利用者に関して細かな情報収集が出来ていなかった。</p> <p>④ 日常的な爪切りや整髪の他、衣服の状態に目を配り、必要時にはご利用者に聞きながら、身だしなみを整えることが出来た。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者の要望を聞き取りながら、やりがいや楽しみを持つ活動企画を実施していく。

感染症や災害が発生した場合でもサービスが継続的に提供できる体制を構築します。	
取組事項	<p>① 感染予防についての取り組みを継続するとともに、感染症に対する知識を習得し、万が一に備えシミュレーションを行います。</p> <p>② 災害時に迅速に対応できるよう、訓練やマニュアルの内容を確認します。</p>
実績	<p>① 7月に事業所内にて新型コロナウイルス感染症が発生。実際の対応を踏まえ、感染収束後に反省会を実施した。改善点を明確にした上で、適切な初動対応を行う為シミュレーションを実施した。</p> <p>② 年2回、避難訓練を実施した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症発生時、災害時に適切な対応が行えるよう、実効性のある訓練を計画し実施する。

5 障害福祉サービス事業

1. 月別利用状況

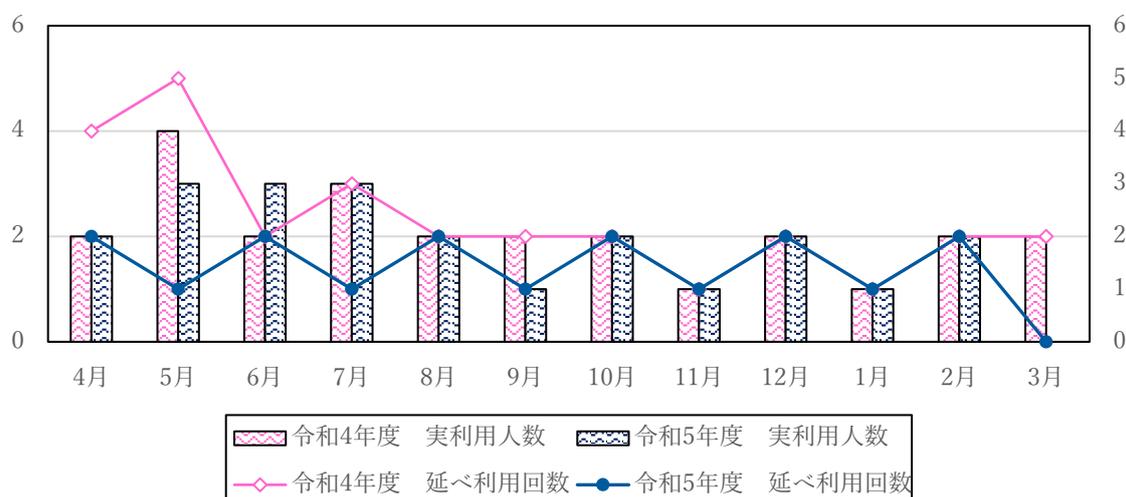
月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	15	15	15	15	15	14	15	18	19	19	17	18	195人
延べ利用回数	160	166	162	150	163	164	166	159	165	153	146	140	1,894回

6 まごの手サービス(介護保険外事業)

1. 月別利用状況

(実利用人数)

(延べ利用回数)



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (令和4年度)	2	4	2	3	2	2	2	1	2	1	2	2	25人
実利用人数 (令和5年度)	2	3	3	3	2	1	2	1	2	1	2	0	22人
延べ利用回数 (令和4年度)	4	5	2	3	2	2	2	1	2	1	2	2	28回
延べ利用回数 (令和5年度)	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	0	17回

2. 「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数	2	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	37人
延べ利用回数	81	73	75	67	74	79	113	101	88	75	87	82	995回

3. 事業報告(総括)

独居やご家族の就業によって一人である時間の不安や心配を軽減します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護保険サービスと見守り安心確認サービスを組み合わせて利用することで、在宅生活の継続が可能であることを提案します。 ② 離れて暮らすご家族がリアルタイムでご利用者の様子がわかるよう、ICTを活用します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 見守り安心確認サービスから在宅サービスを導入したいとケアマネージャーから相談があり、見守り安心確認サービスを経てどんぐり小規模多機能型居宅介護のサービス利用に結び付けることができた。 ② 見守り安心確認サービスはLINEを導入し、離れて生活するご家族や就労で不在にしているご家族にリアルタイムで訪問時の様子をお伝えすることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何かあった時、見守り確認サービスを柔軟に活用することで利用者や家族が安心した自宅での生活を続けられるよう、家族とのコミュニケーションや対応について認識の統一を図っていく。 <p>また、見守り安心確認サービスの利用から在宅サービスの利用に結び付ける事例を増やしていきたい。</p>

在宅サービスを利用中に家族が対応できない受診介助を行い、家族の負担軽減を図れるよう努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 在宅サービス事業所と情報の共有を図り、スムーズな受診介助を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用中のショートステイでの様子や、医療機関に伝達すべきことについて、受診の前に確認を行い連携ノートに記載してもらうことでスムーズに受診介助が行えた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受診時の様子や受診結果の報告を利用中のショートステイに行っているが、ご家族への連絡についてLINEの導入を検討する。

7 ケアセンターどんぐり 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	認知症介護実践者研修
		認知症介護基礎研修
		喀痰吸引等研修(基本研修)
		喀痰吸引等研修(演習)
		安全運転管理者等講習会
		介護ロボット活用・生産性向上セミナー
		現任ヘルパー研修 I 訪問介護のグレーゾーンについて
		防火管理者講習
		コーチング研修
		新型コロナ位置づけ変更後の目指す医療提供体制の実現に向けた講習会
		訪問介護の心得
		職場研修担当者研修
		認知症対応型サービス事業管理者研修
		認知症連絡協議会
		阿賀町介護者の集い
介護支援専門員連絡会		

2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
5月	接遇研修	56人	56人	100%
6月	コミュニケーション研修	55人	55人	100%
7月	救急法(実技研修)	50人	50人	100%
8月	基本動作研修	57人	57人	100%
9月	人権擁護	58人	58人	100%
10月	吐物処理	58人	58人	100%
11月	介護記録に関する研修	57人	57人	100%
12月	感染症研修	57人	57人	100%
1月	介護現場に必要な報連相研修	57人	57人	100%
2月	ハラスメント研修	56人	56人	100%
3月	認知症研修	58人	58人	100%

・救急法については、消防署で少人数毎のグループで参加した。

3. 研修状況

① 外部研修

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になり予防に努めながら研修先へ出向いて参加することができた。オンラインでの研修参加も含め、介護従事者として必要な基礎研修や自己研鑽のための研修に参加しスキルアップに繋げることができた。
- ・資格取得につながる研修については、積極的に参加することができスキルの向上につなげることができた。

② 内部研修

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策のため職員が集まる研修は行えず、各事業所の会議で職員研修を行う予定だったが、5月に1回しか行えなかった。その他の月は Kintone アプリ上で資料や動画を閲覧する方式で研修を行い、個々のスキル向上及び内容の理解を深めることができた。

8 ケアセンターどんぐり 災害対策

1. 緊急連絡網

- ・4月1日付で、緊急連絡網作成

2. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月29日	・日中想定 阿賀町消防署職員立ち合いのもと、避難訓練を行った。	職員 30名 利用者 34名
11月16日	・夜間想定避難訓練 阿賀町消防署職員立ち合いのもと、夜間帯の勤務にあたる職員主体で避難訓練を行った。	職員 25名 利用者 34名

※消火訓練は6月29日の避難訓練後に行った。

3. 消防設備点検

開催月日	点検内容
12月14日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラー等の消火設備、火災報知器、自家発電設備の設備点検を行った。
その他	・毎月消防用設備等の自主点検を実施

4. 消防立ち入り検査

開催月日	指摘内容
4月19日	・ショートステイの非常口2カ所の内鍵がシリンダー式の鍵となっており、管理室から鍵を持ち出さないと開錠できず、緊急時は即座に対応できないことの指摘を受けた。 指摘後、シリンダー式の鍵からテンキー式の鍵へ変更を行った。 ・1階倉庫の棚と天上のスプリンクラーの間に物が置いてあったため、スプリンクラー作動時の散水障害にあたることの指摘を受けた。 指摘後、棚の整理を行い、障害物を取り除いた。

9 ケアセンターどんぐり 苦情受付・対応報告

苦 情

<小規模多機能>

1. 利用者ご家族より

ばあちゃんや近所の方がお茶のみに来た時に食べるようにお菓子やパンを準備して仕事に出かけている。そのお菓子を送迎の職員や訪問した職員が、ばあちゃんからもらっていくようです。先日は、私が準備していたお菓子と違うお菓子が出ていたのでどうしたのかと聞くと、「朝の職員にくれてなくなったから夕方の職員にもくれなくちゃいけないので違う部屋にあるお菓子を出してきた。」と言っていた。一人で動いて怪我をしたり、どこか痛めたらどんぐりさんも困るのではないのでしょうか。おばあちゃんの言っていることをすべて鵜呑みにしているわけではないですが「どんぐりの職員にくれた」という日は必ず、お菓子が減っている。

前からいる職員さんは、ばあちゃんが持って行けと言っても上手に断っているようですが、新しい職員さんはわからないから持っていくんだと思います。新しい職員さんにも持って行かないように話をしてください。

・ご利用者個々の送迎時や訪問時の注意点、対処方法について再確認し職員全員に周知徹底した。また、新しい職員も確認できるよう情報の伝達、管理について検討する。

・ご利用者の気持ち、行為は大切にしながらも上手に断るスキルを身に付けられるようコミュニケーション研修の実施を行った。 <要因:説明・情報不足>

2. 地域住民より

ご利用者宅へ訪問した際、ご利用者宅の玄関前(車道にはみ出して)に車が止まっており、他の車の通り抜けができなかった。

通り抜けができなかった車輛2台についてはその場でUターンして戻っていった。

誰もが通り、通り抜けできる道なので車の止める場所をよく考えてほしい。

と、訪問先ご利用者のご近所の方より話があった。

・送迎や訪問した際、ご利用者私有地であっても通行の妨げになるような駐車はしないよう周知徹底する。 <要因:サービスの質>

苦情の発生件数

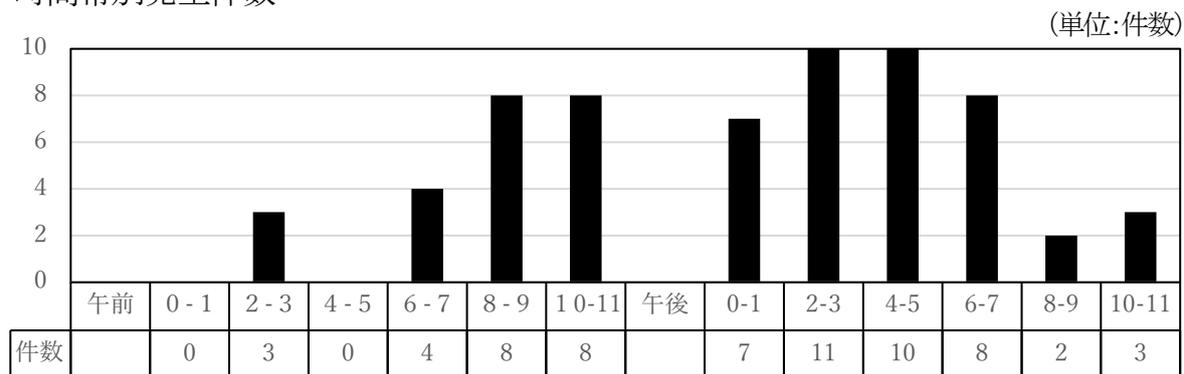
事業	件数
訪問介護	0件
短期入所	0件
小規模多機能	2件
グループホーム	0件
合計	2件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1件
職員の態度	0件
サービスの質	1件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	2件

10 ケアセンターどんぐり 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



〈 発生件数合計 64件 〉

※ヒヤリ・ハット発生件数は67件でした。

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	15件
食堂・ダイニング	22件
トイレ	2件
廊下・玄関	3件
浴室	2件
施設外	5件
利用者自宅	12件
その他	3件
合計	64件

3. 内容別発生件数

発生場所	件数	阿賀町へ報告
転倒・転落	17件	0件
骨折	5件	5件
裂傷	1件	0件
打撲・皮下出血	3件	1件
チューブ抜去	0件	0件
無断外出	0件	0件
私物紛失・破損	12件	0件
異食・誤飲	1件	0件
誤薬・与薬もれ	10件	1件
車輛事故	8件	0件
その他	7件	0件
合計	64件	7件

4. 事故等発生状況総括

- ・事故発生件数について、令和5年度は64件となり、令和4年度の42件から22件増加している。
- ・事故の内容について、転倒・転落が17件発生しており、骨折事故5件のうち転倒を起因とする4件を含めると合計21件となっている。転倒・転落について、同じご利用者において複数回の事故が確認されている他、職員の見守りが行き届かない状況での事故が複数確認されている。
- ・都度、事故の要因分析、対応策の検討・実施を行うとともに、対応策の評価・再検討を事故発生から3ヶ月後に各事業所の会議で行う事で、事故の再発防止に取り組んでいる。また、事故予防に係る内部研修を行うことで、事故防止に対する職員の意識向上に取り組んでいく。

V 令和5年度社会福祉法人東蒲原福社会

ほっとサポートとこなみ 事業報告

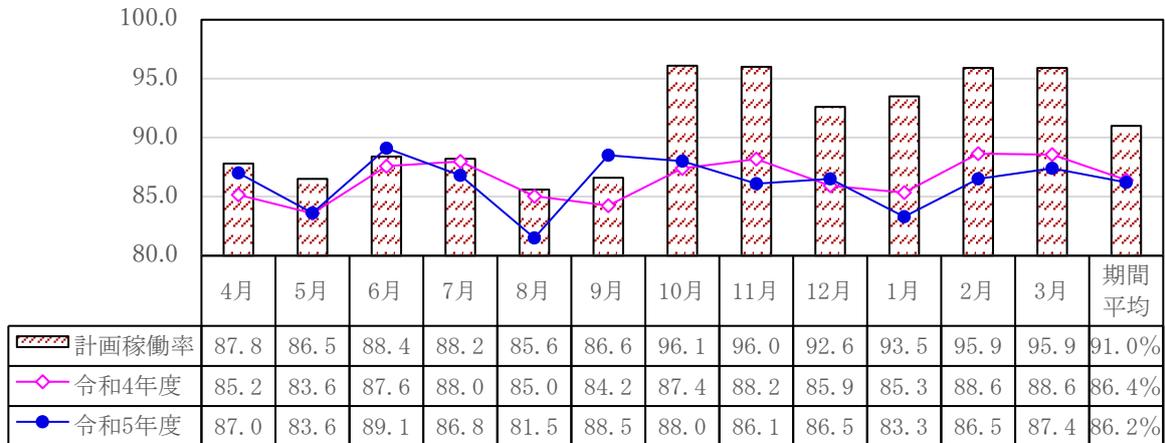
	頁
1. 障害者共同生活援助事業（グループホーム）	76
2. 障害者短期入所事業（ショートステイ）	79
3. 障害者生活介護事業	81
4. 就労継続支援B型事業	84
5. 放課後等デイサービス事業	87
6. ほっとサポートとこなみ研修報告	90
7. ほっとサポートとこなみボランティア活動状況	91
8. ほっとサポートとこなみ災害対策	92
9. ほっとサポートとこなみ苦情受付・対応報告	93
10. ほっとサポートとこなみ事故等発生状況報告	94

1 障害者共同生活援助事業(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(11人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,469日であったことから

$3,469 \text{ 日} \div 4,026 \text{ 日} (11 \text{ 人} \times 366 \text{ 日}) = 0.8616$ 稼働率 86.2%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別入所者数(令和6年3月31日現在)

	障害区分						期間平均
	1	2	3	4	5	6	
令和4年度	0人	4人	2人	3人	1人	0	3.1
令和5年度	0人	4人	2人	3人	1人	0	3.1

3. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
12月25日	クリスマス会	・各ホームで、クリスマスメニューの食事を行った。
12月31日	年末を楽しむ会	・彩豊かなちらし寿司や年越しそばを食べ、好きな飲み物で乾杯した。
1月2日	初詣	・五泉八幡宮にて参拝し、初詣パネル前で記念撮影をした。
2月4日	節分	・お餅を食べて、春を待つ気分を味わった。
2月18日	楽笑スプリング in阿賀の里	・阿賀の里に行き、散策やアイスクリーム及びジュースを飲んで楽しんだ。
3月3日	ひな祭り	・ひし餅型のケーキを食べて、ひな祭り会を行った。

4. 事業報告(総括)

ご利用者のライフスタイルを大切にし、安心して自分のペースで生活を送れるよう支援します。	
取 組 事 項	① ご利用者のできることを大切にし、一人ひとりの状況・環境に応じた利用者本位の支援を行います。また、ご家族、関係機関と接する際の言葉遣い、接遇マナーの基本を身につけるため事業所内での研修を行います。 ② 休日や余暇時間を有意義に過ごせるよう、日ごろのコミュニケーションや相談をとおり趣味や興味のあることを一緒に考え、楽しみや希望に添えるよう支援します。
実 績	① 職員が新しく変わったことで、嗜好品や好きな事などの、きっかけを作り、何でも話せる環境を整えること考え、希望に添えるよう心掛けた。 ② 接遇マナーの基本を身につける研修は、行えなかった。休日は、ゆっくり過ごしてもらおう日、外出を楽しむ日、イベントを観に行くなど、一緒に考え、希望に添えるように支援をした
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町のイベントに参加する。 ・ 今後もご利用者と関わりを持ち、何でも話せて、楽しく生活できるよう努める。

感染症予防を継続し、ご利用者一人一人が安心して楽しく生活できるよう支援します。	
取組事項	<p>① ご利用者の気持ち・体調の変化にすぐ対応できるよう、職員の気づく力を養うための研修を行います。 ご利用者の希望する生活が送れるよう、情報を職員間で共有し支援につなげます。</p> <p>② 災害や火災発生時における避難場所の確認と、事業所独自の防災マニュアルの作成を行います。また、備蓄品の整備を行います。</p>
実績	<p>① 研修は行えなかったが、ご利用者の気持ち、体調の変化に気づき、対応することができた。 ご利用者からの要望を、グループホーム職員で情報を共有することはできた。</p> <p>② 難訓練を実施し、速やかに避難させることができた。また、反射式ストーブ、懐中電灯、食料、水の備蓄整備を行った。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の気づく力を養う研修の実施。 ・ 「ホウ・レン・ソウ」の徹底。 ・ 消防署立会の避難訓練も実施する。

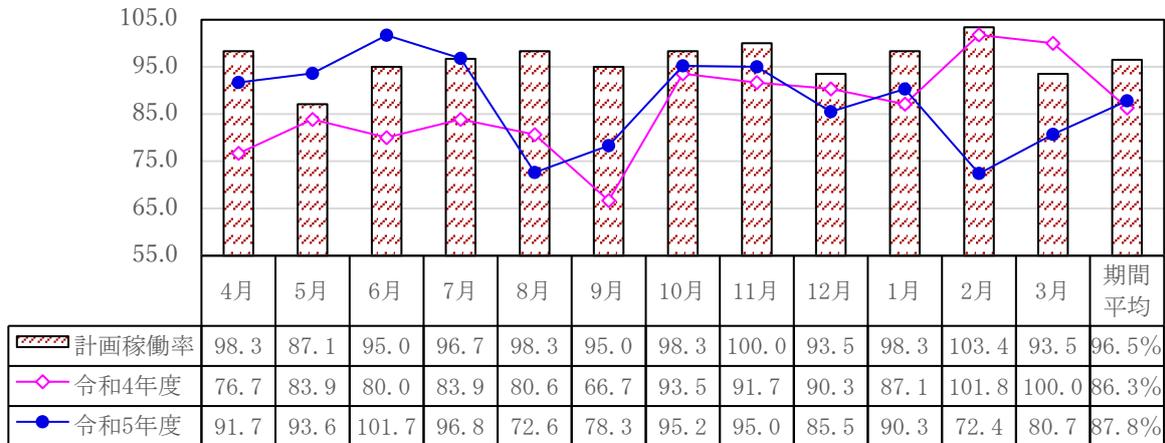
ICTの活用を活用し、ご家族や地域の方への情報伝達や職員間の連携に取り組みます。	
取組事項	<p>① IT、ICT勉強会を実施するとともに、リモートや動画を活用した研修の機会を増やすことで職員のスキルアップ図ります。</p> <p>② 家族や地域の方々へSNS等を活用し、ご利用者の様子を発信していきます。</p>
実績	<p>① オンラインによる会議、研修を行うことができた。</p> <p>② SNS等を活用した情報発信はできなかったが、ご家族へはグループホーム来所時やモニタリングの際に、ご利用者の様子を伝えることができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議や研修のほかにも、SNS、IT 機器を活用した業務の効率化について検討します。

2 障害者短期入所事業(ショートステイ)

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(2人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が643日であったことから

$$\frac{643 \text{ 日}}{732 \text{ 日} (2 \text{ 人} \times 366 \text{ 日})} = 0.8784 \text{ 稼働率 } 87.8\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別延べ利用日数

	児童			成人						計
	1	2	3	1	2	3	4	5	6	
令和4年度	0	0	72	0	191	203	24	112	28	630日
令和5年度	0	0	67	0	220	168	22	100	66	643日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	13	12	13	13	9	11	12	13	12	12	12	11	12人
延べ利用日数	55	58	61	60	45	47	59	57	53	56	42	50	54日

4. 平均支援区分及び平均利用日数

	児童		成人	
	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数
令和4年度	3.0	6日	3.5	4.9日
令和5年度	3.0	5.6日	3.3	4.4日

5. 年間行事報告

行事については障害者共同生活援助部門と合同で開催した。

6. 事業報告(総括)

ご利用者やご家族の要望を伺いながら、自宅で過ごすときと変わらない生活を送れるよう支援します。	
取組事項	① 自宅での生活リズムや習慣を把握し、ご利用時も同じような生活リズムで過ごせるよう支援します。
実績	① ご利用者の生活リズムに合わせた支援を心がけ、ご利用者やご家族に希望の確認を行った。 ご家族に会えた時は利用中の様子を伝えた。
課題と今後の取組	・ ご家族、ご利用者の要望の聴き取りを行っていく。

地域の感染症発生状況を踏まえ、ご利用者、ご家族へ感染症予防対策に関する情報を発信するとともに、地域の感染症に関する情報を収集し、施設内の感染予防に努めます。	
実績	① 送迎時などに、様子や体調の確認を行った。
課題と今後の取組	・ 随時適切な対応ができるようマニュアルを更新、作成する。

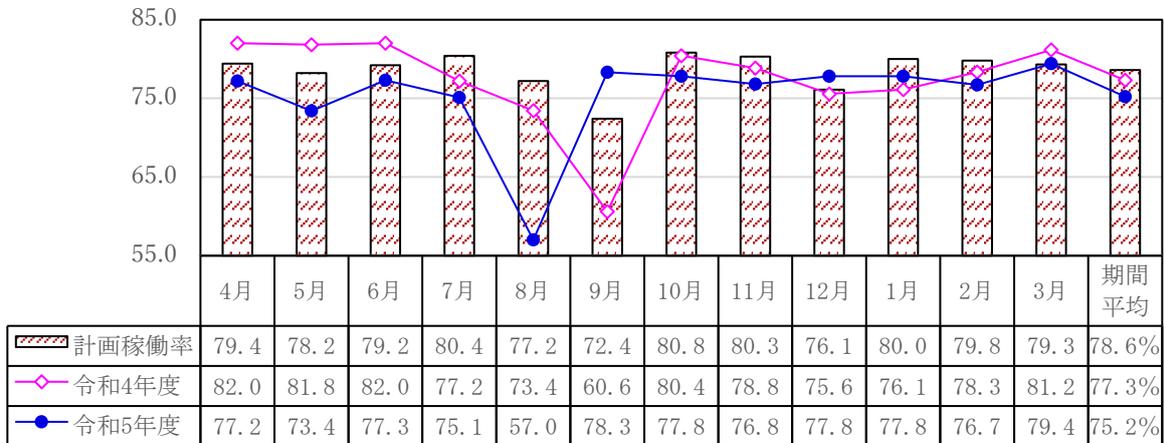
ご利用者個々の変化に対して柔軟な対応をするため、日中活動事業所や関係機関との情報共有により、早期に適切な対応を行います。	
取組事項	① ご利用者の状況変化に対応するため、ご利用前にご家族などからご利用者の状況の確認を行います。 ② 緊急的な利用にも速やかに対応できるよう、職員間および関係機関との情報共有が行えるよう対応を検討します。
実績	① 送迎時などに、様子や体調の確認を行った。 ② 感染症が発症した際は、情報共有し、適切な対応を行った。
課題と今後の取組	・ 随時適切な対応ができるようマニュアルを更新、作成する。

3 障害者生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(9人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が1,777日であったことから

$$1,733 \text{ 日} \div 2,304 \text{ 日} (9 \text{ 人} \times 256 \text{ 日}) = 0.7521 \text{ 稼働率 } 75.2\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
令和4年度	0	74	472	521	753	137	1,777日
令和5年度	0	57	475	514	554	133	1,733日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	14	13	11	13	13	12	12	13	11	13	13	13	12人
延べ利用日数	139	152	153	142	118	148	154	152	140	140	145	150	144日

4. 平均障害区分及び平均利用日数

	成人	
	平均支援区分	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和4年度	4.13	12.00日
令和5年度	4.13	12.00日

5. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
12月24日	クリスマス会	・クリスマスランチを食べ、一人ひとりにプレゼントを渡した。
3月29日	感謝祭	・みんなでケーキを食べた。

6. 事業報告(総括)

地域で生活していることが実感できるように、サービス内容を検討します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設で提供する昼食については、阿賀町内の飲食店にお願いをします。また、変更した後もご利用者の様子を観察し、修正が必要か見直しを行います。 ② 季節を感じられる行事を行い、その中で地域の方とも交流できるように配慮します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 昼食を阿賀町内の飲食店にお願いしたことで、昼食配達時に飲食店の方とご利用者のかかわりが生まれた。食事に関してご利用者様からの不満の様子は見られていない。 ② 季節ごとの行事を行うことはできなかったが、昼食の変更により地域の方との交流ができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所内で過ごすだけでなく、地域の方と交流できる活動を検討していく。

事業継続計画(BCP)に基づき、災害等発生時も事業を継続できるよう体制を整備します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 営業時間内の災害等の発生時には、ご利用者の安全を最優先し、ご家族や事業所に送り届けられるよう連絡や調整を行います。 ② 災害時に被害が最小限となるように、障害事業独自の災害マニュアルを作成します。 ③ 防災備蓄品の点検や避難訓練を定期的に行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症発生時には、ご利用者の安全を考え、送迎時間を早める帰宅調整を行なった。 ② 災害マニュアルを作成しました。 ③ 3月に避難訓練、消火訓練を行なった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害マニュアルの変更を継続して行います。

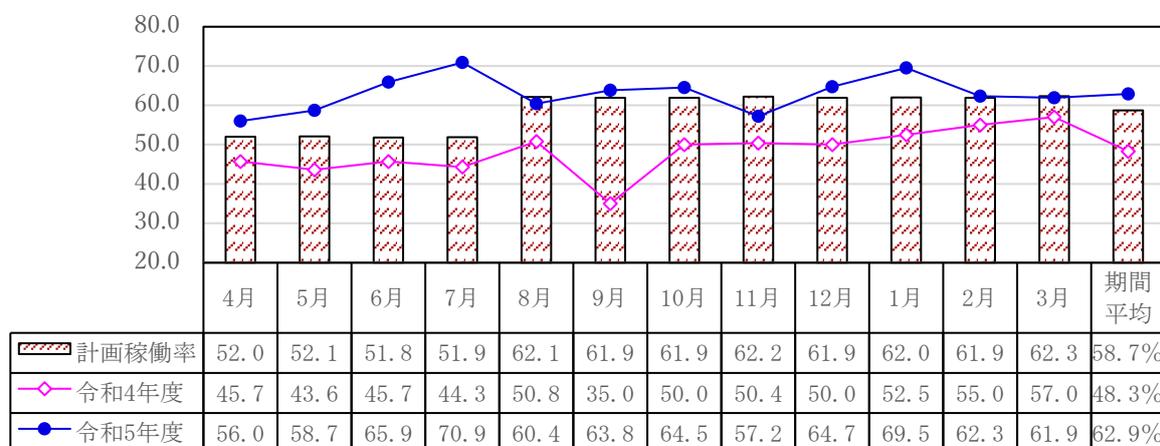
ITやICTを活用し、事業の効率化を図るとともに職員のスキルアップを図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① アプリを活用し、職員同士の連絡体制を整備し、連携を図ります。 ② 職員がリモート(Zoom 等)を活用した会議の習熟するよう指導を行い、様々な場面でのオンライン会議を実践します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① アプリの活用を行うことで、職員間の情報共有、連絡が効率的に行われ、他事業との連携を持てるようになった。 ② ITを活用し、オンライン研修への参加を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS、IT機器の活用ができるよう、職員のスキルアップを図り、会議やミーティング等に活用していきます。

4 就労継続支援B型事業

1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(10人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が1,618日であったことから

$$\frac{1,618 \text{ 日}}{2,570 \text{ 日} \langle 10 \text{ 人} \times 257 \text{ 日} \rangle} = 0.629 \text{ 稼働率 } 62.9\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分							計
	区分なし	1	2	3	4	5	6	
令和4年度	0	26	570	425	0	225	0	1,246日
令和5年度	224	82	656	452	0	204	0	1,618日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	7	8	9	9	8	9	9	8	8	8	8	8	8人
延べ利用日数	112	135	145	149	139	134	142	126	136	139	131	130	134日

4. 作業収入及び支払報酬

相手先	作業内容	金額
東蒲原福祉会	ベランダ清掃、車輛洗車、車いす清掃等	255,000 円
どんぐり	施設内清掃	240,000 円
東蒲の里	施設内清掃	45,000 円
山から株式会社 コンビリー	コンビリー店内清掃、紙袋作り、グラノーラ袋入れ、阿賀の里トイレ掃除、えごまの選定、くるみのむきみパック作成、小麦粉挽き	1,090,700 円
麒麟山酒造	シール貼り	4,461 円
農福連携等	苗箱洗い、法被洗い	29,900 円
作業収入計…①		1,665,061 円
支出	材料費等の経費	40,914 円
	消費税	50,500 円
経費支出計…②		91,414 円
収支差額(支払工賃原資)…③=①-②		1,573,647 円
実利用者数計…④		1,618 人
平均工賃		20,829 円

5. 事業報告(総括)

ご利用者の将来を見据え、接遇や社会のルールを職員が利用者に分かりやすく伝えられるように資質の向上に取り組みます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 日頃から職員は言葉使いや挨拶、勤務態度に注意し、ご利用者の手本となります。 ② ご利用者に対し、接遇の研修を行い、社会人としての基本的マナーを確認します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員の勤務態度をご利用者が見て真似していることを実感することができた。 ② 接遇の研修を行うことはできなかったが、日々、接遇や基本的マナーについて気づいたことは話し合いを行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労継続支援 B 型の職員としての支援についての研修に参加します。 ・ ご利用者の将来を考え、将来に活かせる作業内容を検討します。

事業継続計画(BCP)に基づき災害発生時に備えて対応状況や避難方法が分かりやすいように活動時の体制を整備します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 営業時間中に職員とご利用者が何処で作業を行っているのかを明確にし、災害時に直ぐに対応ができるように体制を整備します。 ② 避難訓練を定期的に行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 阿賀の里やみかわ園の作業に行く利用者を固定し、別の利用者が行く際には連絡を取り合った。また、大雨で送迎が難しい時には、前日に利用の確認を行い、利用者が混乱しないよう対応した。 ② 10月・3月に避難訓練を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設外へ作業に出ているご利用者・職員への連絡方法を検討します。

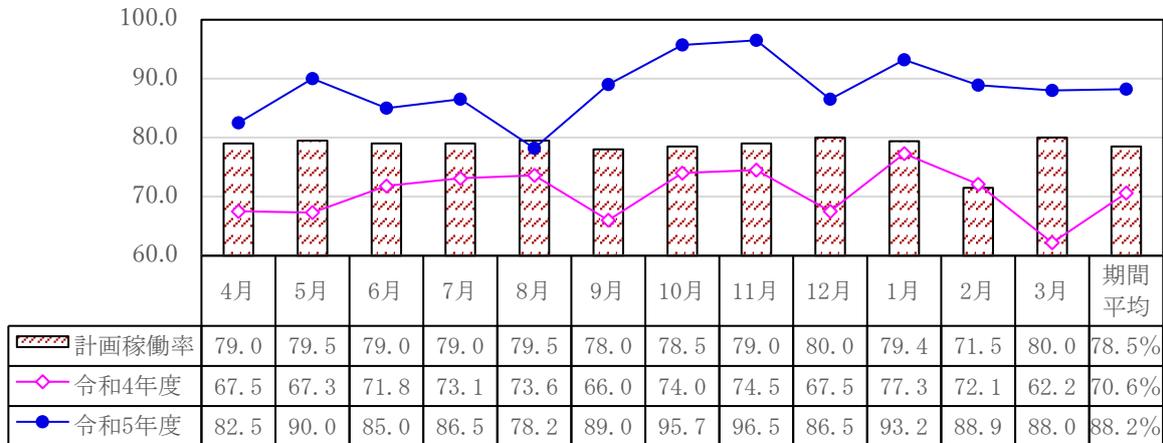
ご利用者が安心して阿賀町で済み続けられるように、作業の拡大や就労先の確保を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後、農福連携や農業ができるように検討を行います。 ② ご利用者に現在の作業内容や工賃について聞き取りを行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 八田蟹地区・津川地区の方より、苗箱洗いの仕事を頂いた。山から株式会社と次年度の栗園の整備について話し合いを行った。 ② 利用者に定期的に聞き取りを行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方からの作業依頼の増加を目指し、阿賀町役場農林課農政係と連携します。

5 放課後等デイサービス事業

1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(10人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が2,144日であったことから

$2,144 \div 2,430 \text{日} (10 \text{人} \times 243 \text{日}) = 0.8823$ 稼働率 88.2%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	13	12	13	13	15	13	13	13	13	13	12	14	13人
延べ利用日数	165	180	187	173	172	178	201	193	173	177	169	176	179日

3. 平均障害区分及び平均利用日数

	児童
	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和4年度	11.90日
令和5年度	13.76日

4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
10月30日	ハロウィン	・庭にお菓子をぶら下げてくれる地域の方宅へ伺い、お菓子をいただてきた。
12月26日	クリスマス会	・マクドナルドへの外食後、100円ショップで自分の欲しいもの(プレゼント)を購入した。
その他	・感染症対策を行いながら、長期休みの昼食づくりを実施した。	

5. 事業報告(総括)

子供たちの目標を実現できるよう、個々の課題に合わせた支援を行います。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ① 子供たちの成長に合わせて社会のルールや将来必要なスキルを身につけられるよう、一人ひとりの課題と目標を職員間で共有します。 ② 活動内容(個別活動・集団活動)の充実をはかります。 ③ 事業所での IT 機器等の使用はどのように活用できれば、子供たちに有効な支援に繋がるのかを検討します。 ④ 進級等の理由でご利用が終了した場合でも、定期的に連絡を取ることで、保護者とのつながりを維持していきます。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日の職員ミーティング時に、子供たちの状態の確認と配慮すべき点を話し合うことで、一人ひとりの支援のポイントを共有した。 ② 職員の入れ替わりがあったことから、今までの活動の目的等を理解できるよう、基本的な活動内容で支援をした。 ③ 学校で使用している iPad で調べられるものは、各自の iPad で調べてもらった。 ④ 長期休みの前、計画のモニタリング等の時期に連絡を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングの時間を活用し、子供たちの目標や保護者のニーズを確認しながら支援を行います。

感染症や災害が発生した場合でも、子供たちや家族にとって必要なサービスが継続的に行えるよう体制を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害が発生した場合を想定し、子供たちの安全確保を最優先に、保護者のもとへ安全に送り届けられるよう、保護者との連絡手順を整備し共有します。 ② 感染症が発生した場合は、状況把握に努め感染が拡大しないよう適切な対応を行います。 ③ 定期的に避難訓練を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害等での被害はなかったが、災害時の連絡手順を確認した。 ② アプリの活用で、地域の感染症情報を把握することができ、すぐに対応を行うことができた。 ③ 10月と3月に避難訓練、消火訓練を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の連絡メールへの登録をさせてもらえるよう学校と調整していきます。 ・ 災害マニュアル作成、連絡手順の見直し作成を行います。

ICTを利用者情報発信。情報共有を行うことで、業務の効率化や職員のスキルアップを図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① アプリを利用した職員同士の連絡体制の整備、オンラインによる会議、研修を実施することで、情報共有を効果的にを行い、職員間の連携や業務の効率化に繋がります。 ② 事業の取り組みや事業所での子供たちの様子を定期的に発信していきます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① アプリを利用し、利用者の情報や職員間の連絡を効率的に行うことができた。また、オンラインによる会議、研修を行うことができた。 ② 公式 LINE を使用し、保護者へのお知らせや連絡を行った。事業所での子供たちの様子は行事があった際に発信するのみで、定期的な発信ができなかった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議や研修のほかに、SNS、IT 機器を活用した業務の効率化について検討します。

6 ほっとサポートとこなみ 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	安全運転管理者等講習
		新潟県難聴児支援に関する支援者向け研修
		新潟県発達障害児者支援者向け研修会
		地域包括ケアシステム構築部会
		障害者就業支援ネットワーク連絡会議
		農福連携交付金活用セミナー
		新潟圏域支援従事者研修
		企業・福祉事業所合同進路説明会
		高齢者施設等新型コロナ研修会
		新津信愛病院地域精神医療連絡会
		社会福祉施設安全管理研修会
		五泉特別支援学校オープンスクール
		サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修

2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
7月	・救急法	18人	16人	88%
8月	・感染予防着の手技について ・吐物処理方法	18人	17人	94%
9月	・法令遵守について ・個人情報保護について ・高齢者、障害者虐待防止について	18人	13人	72%
1月	・感染症の知識や対応方法について	14人	14人	100%
3月	・身体拘束について ・虐待防止について ・感染予防着の手技、吐物処理の再確認	14人	14人	100%

・救急法は阿賀町消防署を会場に少人数制で行った。

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

- Web 研修会が主流であったが、各事業に関係する研修に参加することで、知識や支援技術、障害理解のスキルアップに努めた。

① 内部研修

- 新型コロナウイルス感染症防止のため、集合研修は行わず、資料配布や動画視聴での研修を行った。
- 毎月月曜日に動画の配信を行い、月毎「障害特性」「支援方法」等テーマを決め、そのテーマに関する動画を、公式LINEにて配信し、視聴研修とした。(任意)

7 ほっとサポートとこなみ ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

8 ほっとサポートとこなみ 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
10月18日	〈とこなみ(鹿瀬)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後 消火訓練を行った。	職員5名
10月28日	〈たいよう〉 ・日中を想定した避難訓練を行った。	職員1名
10月29日	〈あかり〉 ・日中を想定した避難訓練を行った。	職員1名
3月16日	〈たいよう〉 ・日中を想定した避難訓練を行った。	職員1名
3月17日	〈あかり〉 ・日中を想定した避難訓練を行った。	職員1名
3月19日	〈とこなみ(平堀)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通達訓練を実施。消防本部の講評後消火 訓練を行った。	職員4名
3月25日	〈とこなみ(平堀)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通達訓練を実施。消防本部の講評後消火 訓練を行った。	職員3名
3月29日	〈とこなみ(鹿瀬)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通達訓練を実施。消防本部の講評後消火 訓練を行った。	職員5名

2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
6月8日	・契約業者による消防設備の点検(障害事業全建物) スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を 行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月14日	・契約業者による消防設備の点検(障害事業全建物) スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器などの点検を行い、点検結果 を阿賀町消防本部へ報告した。

9 ほっとサポートとこなみ 苦情受付・対応報告

苦 情

<放課後等デイサービス>

1. 利用児童より

学校からの送迎車内で「この前スクールバスで家に帰った時バスの中がすごく楽しかった。最近のとこなみはつまらないし、楽しくないからとこなみをやめてバスで帰ろうと思っている。」「自分の好きなことばかりできないことはわかるけど、最近のとこなみは面白くない」と話があった。

家族、学校に確認をおこなうと、家族からは、確かに、とこなみはつまらないから行きたくないと言っている。楽しんでとこなみを利用してもらいたい。学校からは、児童が「バスで帰る」と言い張って聞かないがとこなみ利用であることを話し、納得してもらっている。放課後の安否にもかかわるので、家族とどのようにするかを話してほしいとのことだった。

- ・家族、学校への謝罪を行い、職員間で児童、家族、学校からの苦情の内容を共有した。
- ・家族、関係機関等は放課後等デイサービス事業所では、職員の経験の有無にかかわらず、専門性をもって支援してもらっていると思っていることを確認した。
- ・活動時に職員がチームとなって支援を行っていけるよう、日々のミーティングでの話し合いを行うこととした。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

事業	件数
共同生活援助	0件
短期入所	0件
生活介護	0件
就労継続支援B型	0件
放課後等デイサービス	1件
合 計	1件

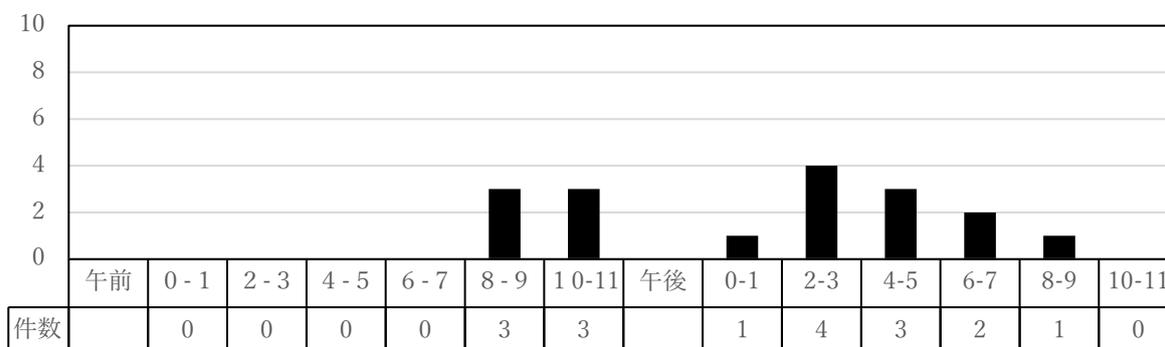
苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	1件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合 計	1件

10 ほっとサポートとこなみ 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数

(単位:件数)



〈 発生件数合計 17件 〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	0件
食堂・リビング	2件
作業室・多目的室	2件
廊下・玄関	0件
浴室	0件
トイレ	0件
施設外	5件
その他	8件
合計	17件

3. 内容別発生件数

発生場所	件数	阿賀町へ報告
転倒・転落	1件	0件
骨折	0件	0件
裂傷	0件	0件
打撲・皮下出血	3件	0件
無断外出	2件	0件
私物紛失・物品破損	1件	0件
異食・誤飲	0件	0件
誤薬・与薬もれ	4件	1件
利用者間トラブル	4件	0件
車輛事故	2件	0件
その他	0件	0件
合計	17件	1件

4. 事故発生状況総括

- 事故の内容については、各事業の活動内容の変化、職員の障害特性の理解不足により起きてしまった事故が多かった。職員の対応方法によっては、事故に繋がる危険性があることを理解し、利用者個々の特性、障害特性を理解したうえで支援できるよう、職員のスキルアップを図ります。
- 令和5年度のヒヤリハット件数は35件です。